

FY2024 3Q

第19期 第3四半期決算説明資料

2023.5.1～2024.1.31

Presentation Material for Financial Results

株式会社スマレジ 証券コード: 4431



- P3 2024年4月期 通期業績予想の修正について
- P4 2024年4月期 3Q決算概要
- P14 事業の状況
- P24 スマレジについて
- P35 Appendix

2023年4月期末に企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2023年4月期第3四半期に係る各数値については、遡及処理後の内容を反映しております。これにより、本資料掲載の23年4月期1Q～4Qの関連する数値が、開示済みの資料と異なっております。影響は軽微であり、23年4月期通期業績に変更はありません。

2024年4月期 通期業績予想の修正について

販管費の圧縮効果等により、前回の業績予想修正（24年2Q）からさらに業績予想を修正

2024年4月期 通期業績予想（2023年5月1日～2024年4月30日）

(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	8,012	1,303	1,303	884
今回発表予想 (B)	8,204	1,610	1,608	1,052
増減額 (B-A)	191	307	305	168
増減率	2.4%	23.6%	23.4%	19.0%

業績予想修正の理由

クラウドサービス全体が計画を上回る好調に推移し、2023年12月13日に発表した通期業績予想の修正値を若干上回る見込みです。

広告宣伝活動や採用の効率化・純増人員の未達を原因として、さらに販売費及び一般管理費の圧縮が見込まれ、営業利益、経常利益及び当期純利益は、前回の予想値を上回る見込みです。

売上高

YoY

前年同期比

+45.0%

60億4千3百万円

営業利益

YoY

前年同期比

+103.7%

12億8千3百万円

ARR

YoY

前年同期比

+37.7%

55億1千8百万円

従業員数

YoY

前年同期比

+21.1%

299人

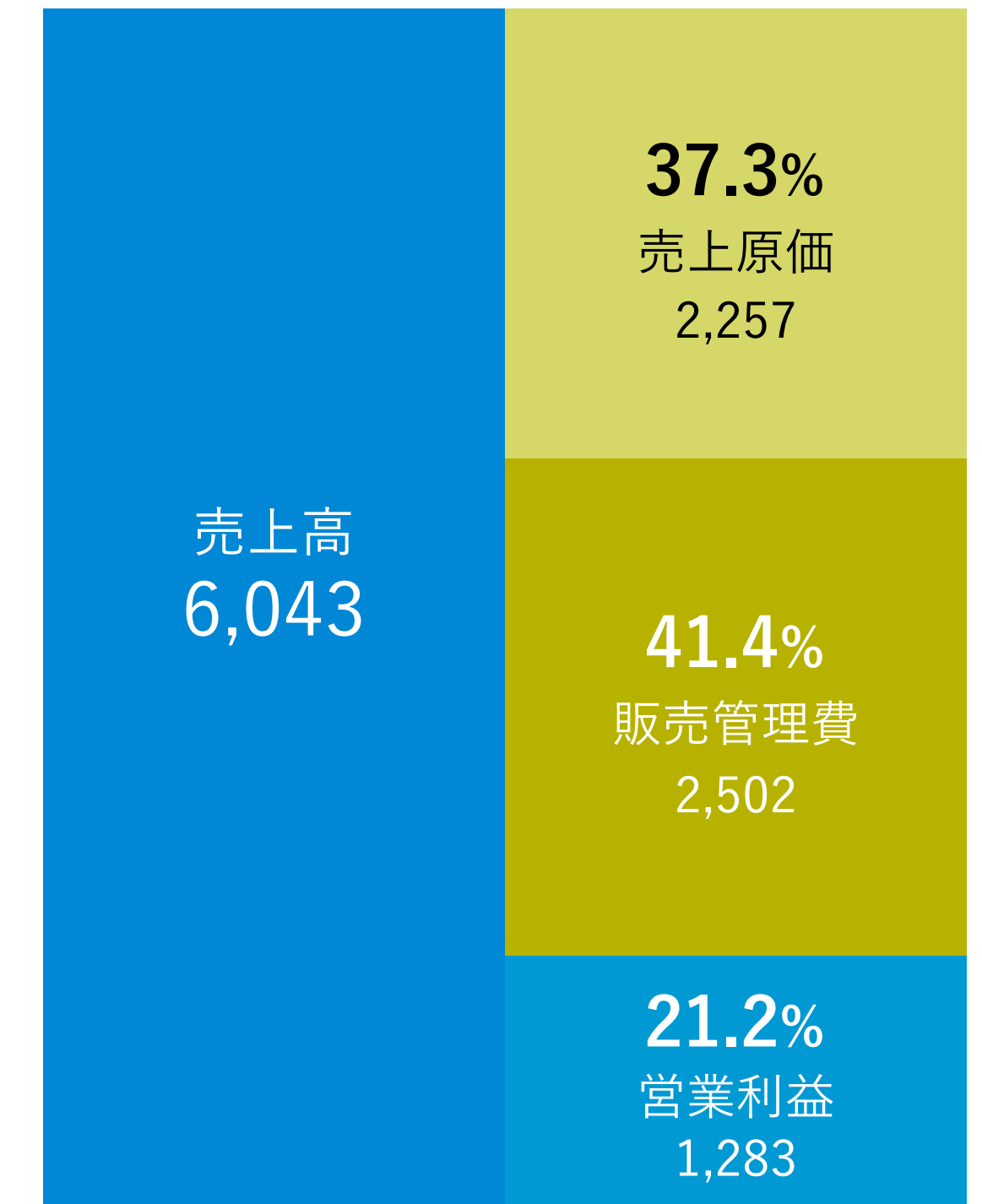
売上高はYoY + 45.0%、営業利益はYoY + 103.7%の成長

(百万円)	2024年4月期 3Q実績 (23年5月～24年1月)	2023年4月期 3Q実績 ※1 (22年5月～23年1月)	前年同四半期比 YoY	2024年4月期 通期計画 ※2 (23年5月～24年4月)	2024年4月期 3Q進捗率 (23年5月～24年1月)
売上高	6,043	4,168	+45.0%	8,204	73.7%
売上原価	2,257	1,648	+36.9%	-	-
売上総利益	3,785	2,519	+50.3%	-	-
販売費及び 一般管理費	2,502	1,889	+32.4%	-	-
営業利益	1,283	630	+103.7%	1,610	79.7%
経常利益	1,280	632	+102.5%	1,608	79.6%
四半期(当期) 純利益	877	666 ※3	+31.7%	1,052	83.3%

※2 通期業績予想を修正 (P3参照)

収益構造

(百万円)



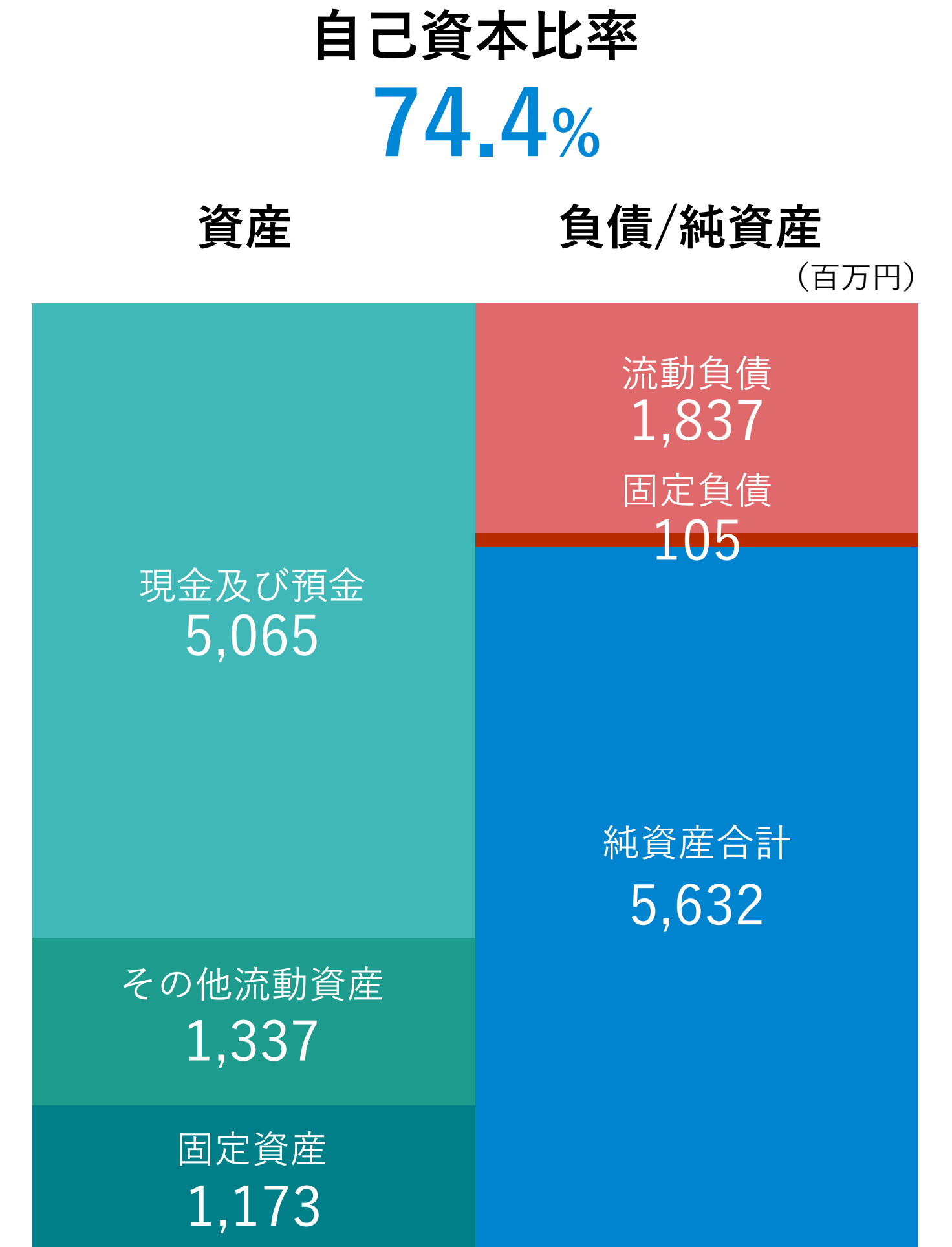
※1 旧連結子会社である株式会社ロイヤルゲートを2022年7月1日付で吸収合併したため、2023年4月期にロイヤルゲート社の2022年5～6月の業績は含まれません。

※3 株式会社ロイヤルゲートの吸収合併により抱合せ株式消滅差益（特別利益）、法人税等調整額（益）を計上

事業拡大による前受金と法人税の増加により流動負債がYoY +56.0%

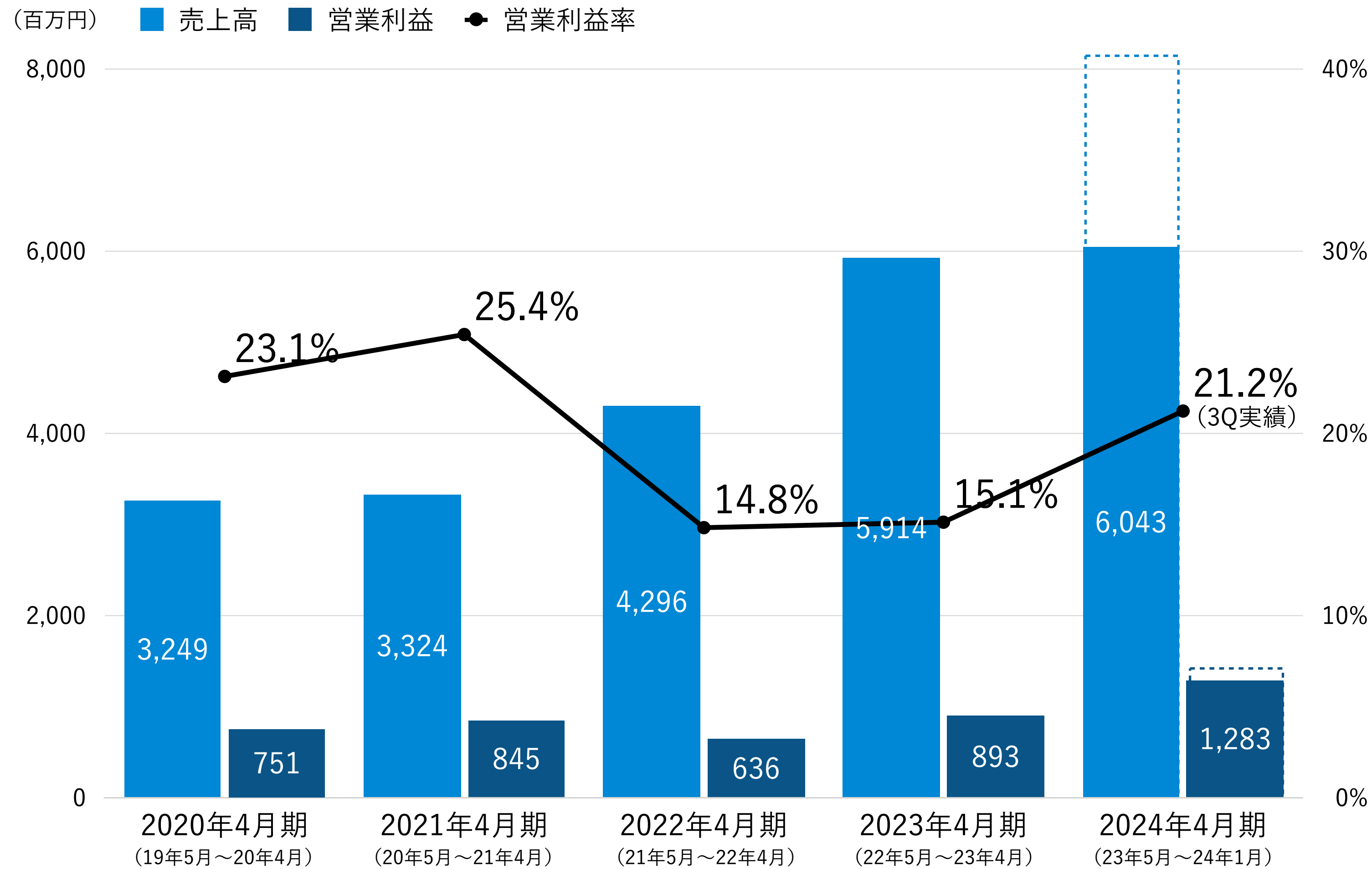
堅調な業績により純資産はYoY +26.3%、自己資本比率は74.4%と財務基盤は安定

(百万円)	2024年4月期 3Q実績 (23年5月～24年1月)	2023年4月期 3Q実績 (22年5月～23年1月)	前年同四半期比 YoY	2024年4月期 2Q実績 (23年5月～10月)	前四半期比 QoQ
流動資産	6,402	4,741	+35.1%	5,931	+7.9%
うち現預金	5,065	3,773	+34.2%	4,658	+8.7%
固定資産	1,173	983	+19.3%	1,115	+5.1%
資産合計	7,576	5,724	+32.4%	7,047	+7.5%
流動負債	1,837	1,178	+56.0%	1,631	+12.7%
固定負債	105	86	+21.9%	102	+2.7%
負債合計	1,943	1,264	+53.7%	1,733	+12.1%
純資産合計	5,632	4,459	+26.3%	5,314	+6.0%
負債・ 純資産合計	7,576	5,724	+32.4%	7,047	+7.5%



売上高・営業利益・営業利益率の推移

修正後の通期業績計画に対する24年4月期3Qの売上高進捗率は73.7%、営業利益進捗率は79.7% ※1



2024年4月期3Q
(累計期間)

売上高進捗率 ※1

73.7%

6,043百万円 / 8,204百万円

営業利益進捗率 ※1

79.7%

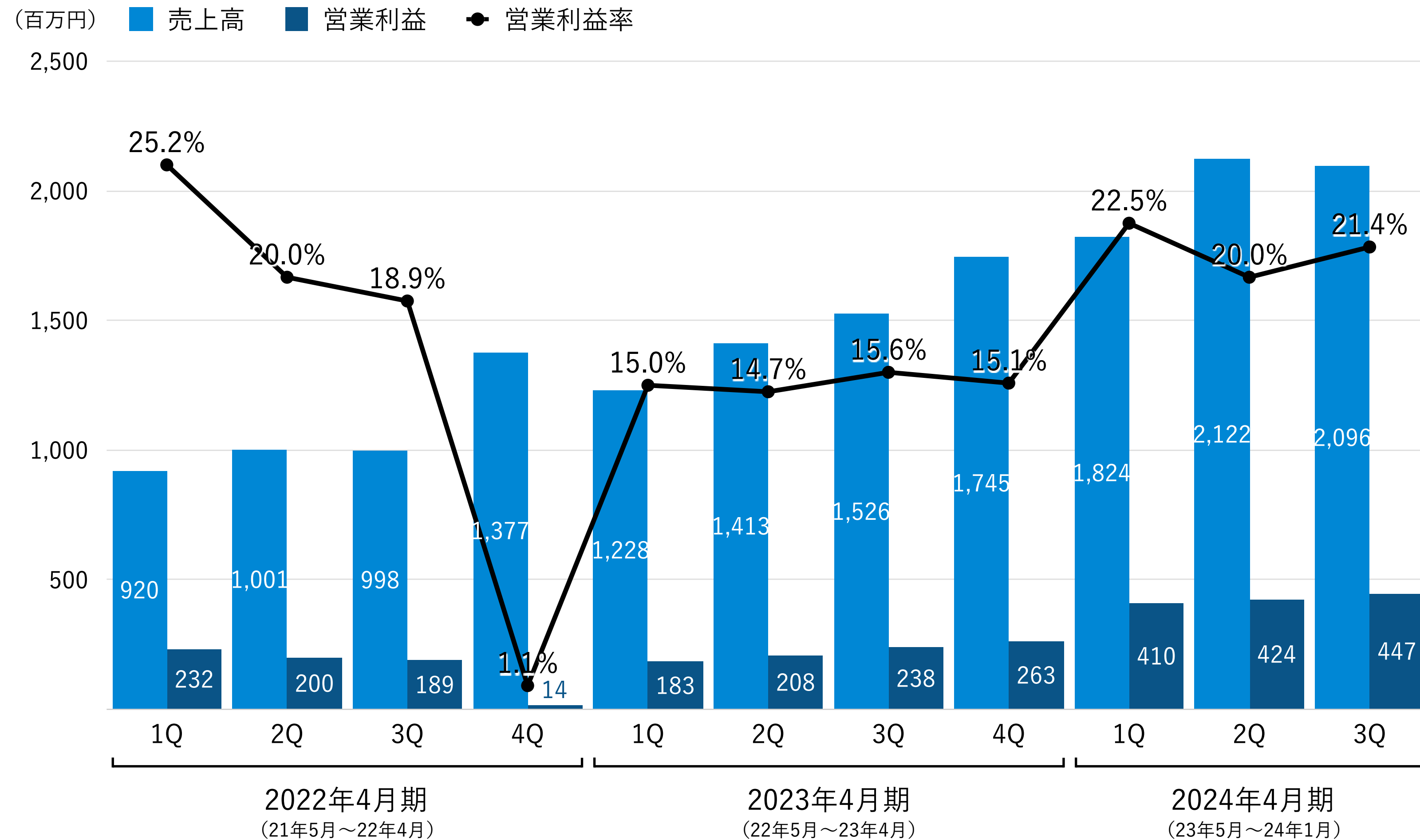
1,283百万円 / 1,610百万円

※2022年4月期4Qは連結子会社（株式会社ロイヤルゲート）の業績を含む。※2022年7月1日付で株式会社ロイヤルゲートを消滅会社とする吸収合併を実施、非連結会計に移行

※1 2024年3月15日に発表した業績予想修正後の計画値に対する進捗率

売上高・営業利益・営業利益率の四半期推移

自動釣銭機の特需がピークアウトし、売上高はQoQ-1.3%（内訳はP10参照）
 堅調な業績とコストの最適化により、3Q営業利益率は21.4%で着地



2024年4月期3Q

営業利益率
21.4%

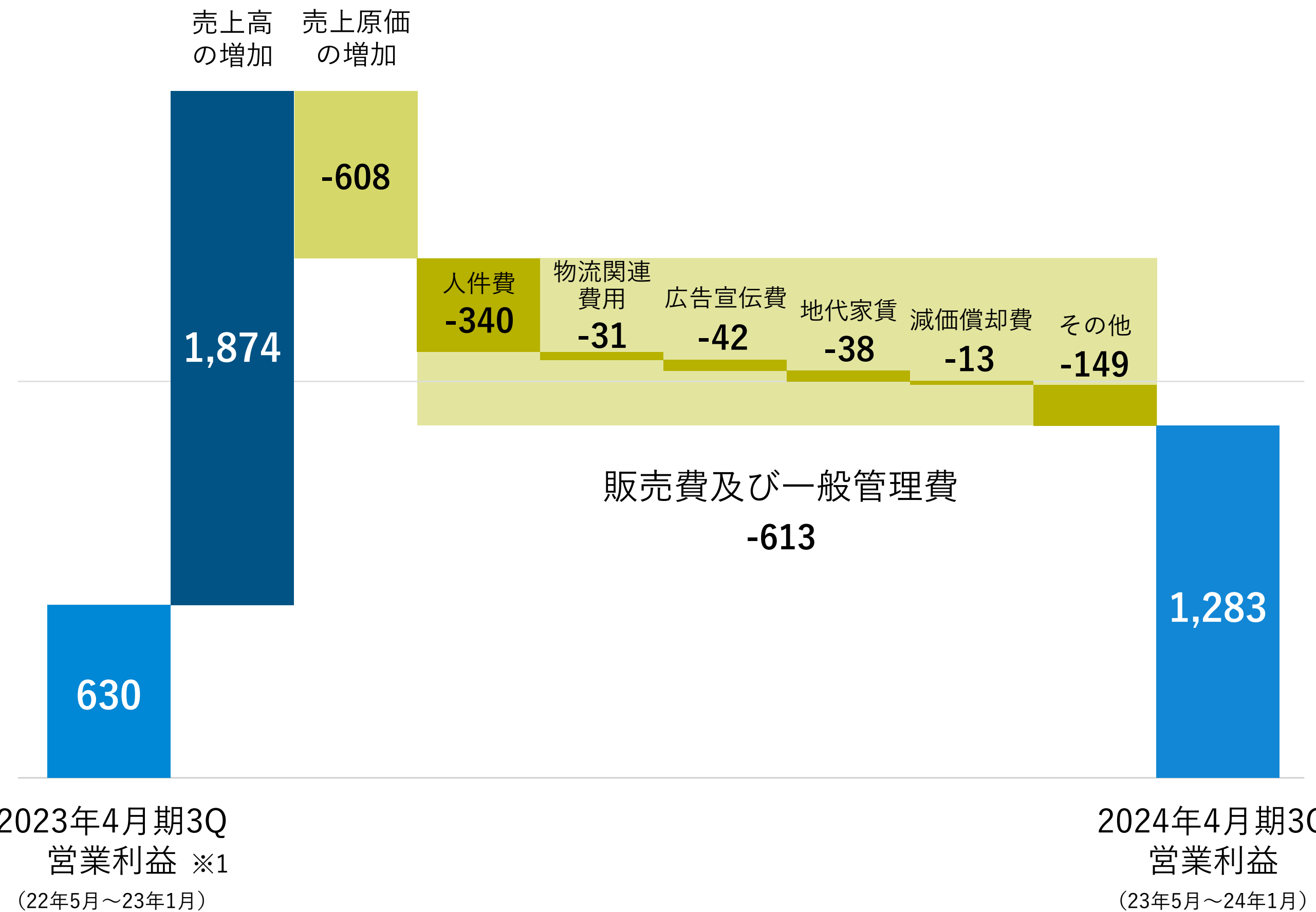
YoY
 前年同四半期比
↑5.8pt

QoQ
 前四半期比
↑1.4pt

※2022年4月期4Qは旧連結子会社（株式会社ロイヤルゲート）の業績を含む
 ※2022年7月1日付で吸収合併したため、2023年4月期1Qに旧連結子会社（株式会社ロイヤルゲート）の5~6月の業績は含まれません。

堅調な業績と広告運用の効率化による販管費の圧縮が、営業利益の大幅増加に貢献

(百万円)



売上高の増加

- 新規有料契約の増加
- クラウドサービス月額利用料の価格改定（2023年1月より新価格適用開始）
- 低解約率によるストック売上高の積上げ
- 新紙幣発行に伴う釣銭機更新作業の受注
- 決済関連事業の拡大

売上原価の増加

- 売上高の増加に伴う機器仕入の増加
- 労務費をはじめとした製造原価の増加

販売費及び一般管理費の増加

- 従業員の増加による人件費の増加
- 事業拡大に伴うその他経費の増加
- マーケティングの効率化により広告宣伝費の増加幅を縮小

※1 旧連結子会社である株式会社ロイヤルゲートを2022年7月1日付で吸収合併したため、2023年4月期にはロイヤルゲート社の2022年5～6月の業績は含まれません。

有料店舗数やキャッシュレス決済サービスの堅調な増加により、サブスクリプション売上高はYoY+48.1%の成長
 機器販売等は、2Qの新紙幣特需がピークアウトし平常化。決済端末配布の影響で初期費用粗利率がQoQ-2.4pt

2024年4月期3Q

サブスクリプション
売上高比率

64.7%

初期費用粗利率

機器販売等

31.9%

QoQ

前四半期比

↓ 2.4pt

SaaS粗利率

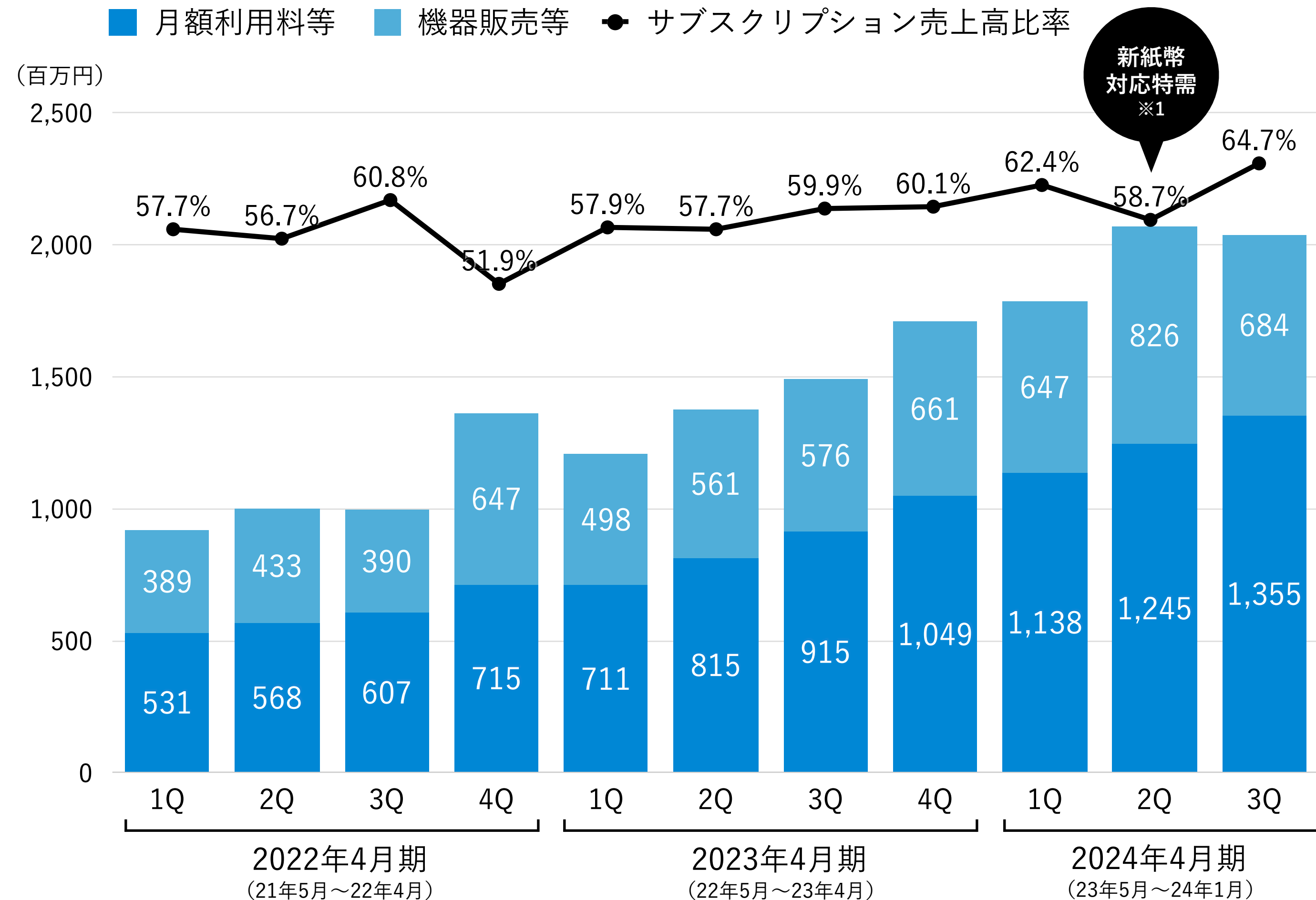
月額利用料等

81.6%

QoQ

前四半期比

↑ 1.3pt



※その他システム開発費等の売上高はグラフに含んでいません。2022年7月1日付で吸収合併したため、2023年4月期1Qに旧連結子会社（株式会社ロイヤルゲート）の5~6月の業績は含まれません。

※1 24年4月期2Q売上高「機器販売等」に2024年7月の新紙幣発行に伴う自動釣銭機のシステム改修特需が発生。2Qに特需全体の6割超を計上

販売費及び一般管理費の四半期推移

認知広告の拡大により広告宣伝費QoQ+25.1%、2Qの人件費積み増しと株式報酬の株価の影響により人件費は微減
 中期経営計画（ARR目標）必達を目指し、計画的な積極投資を継続

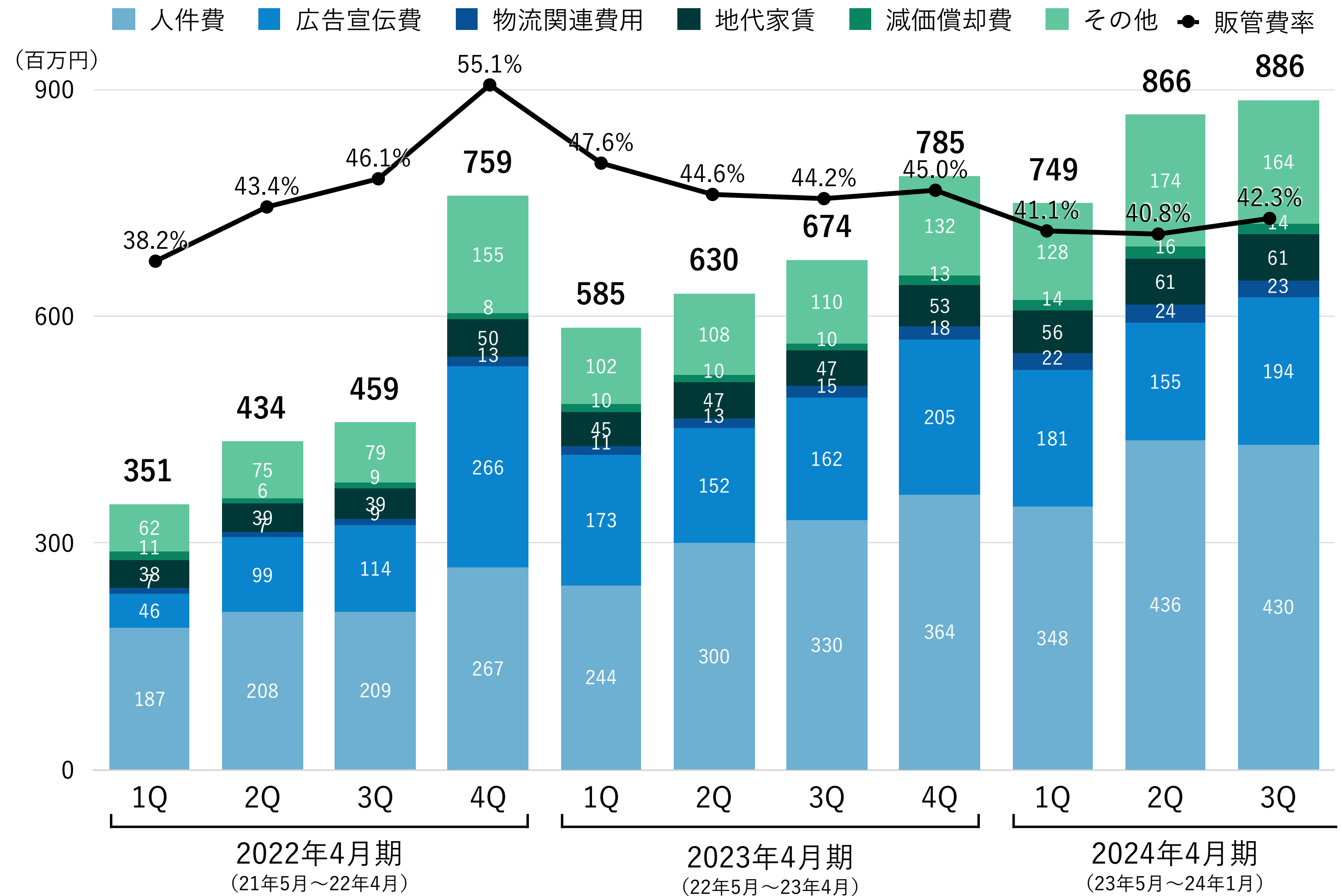
2024年4月期3Q

販売費及び一般管理費

886百万円

YoY **+31.5%**
 前年同四半期比

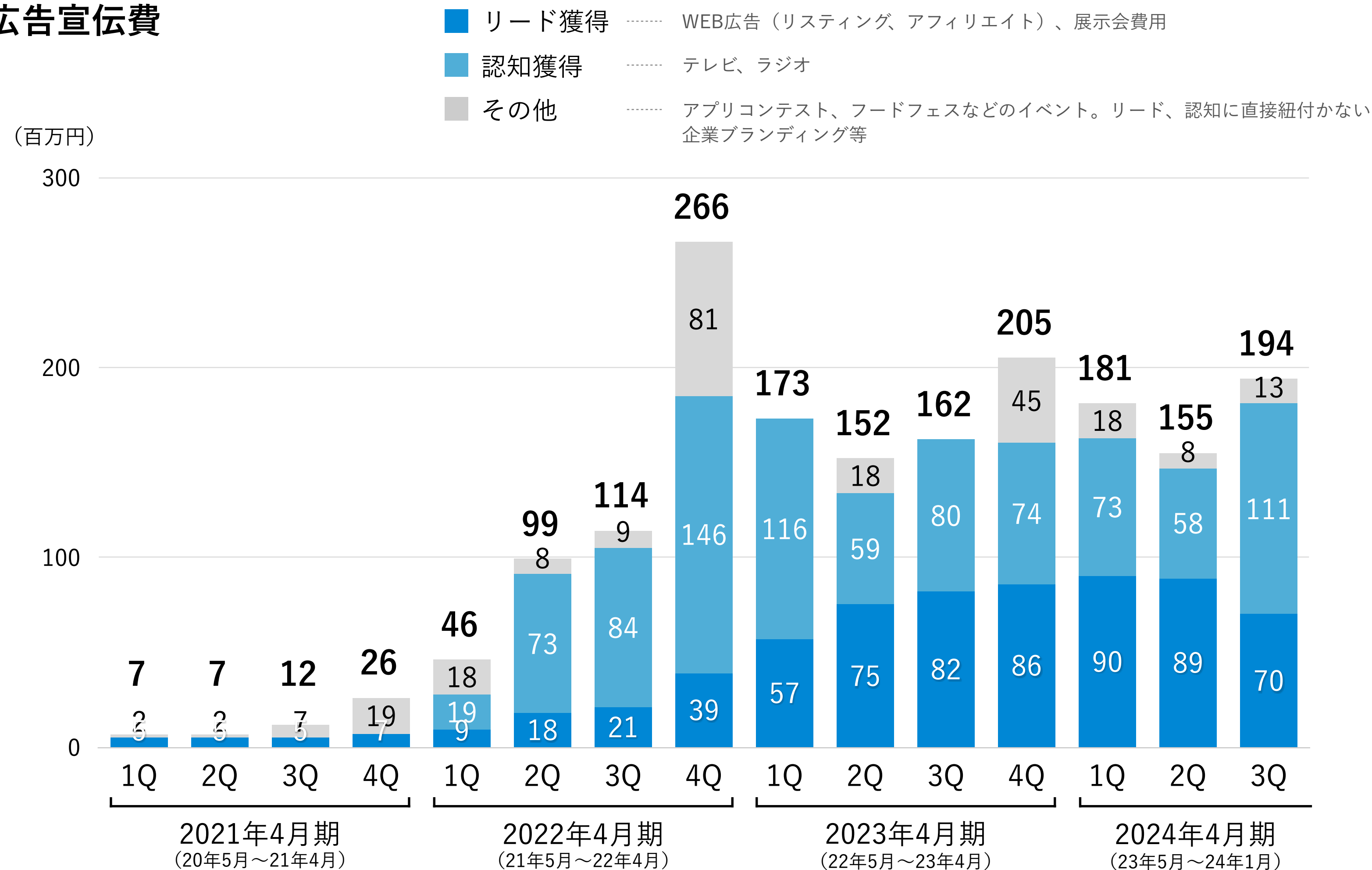
S&M **390**百万円
 S&M比率 **18.6%**



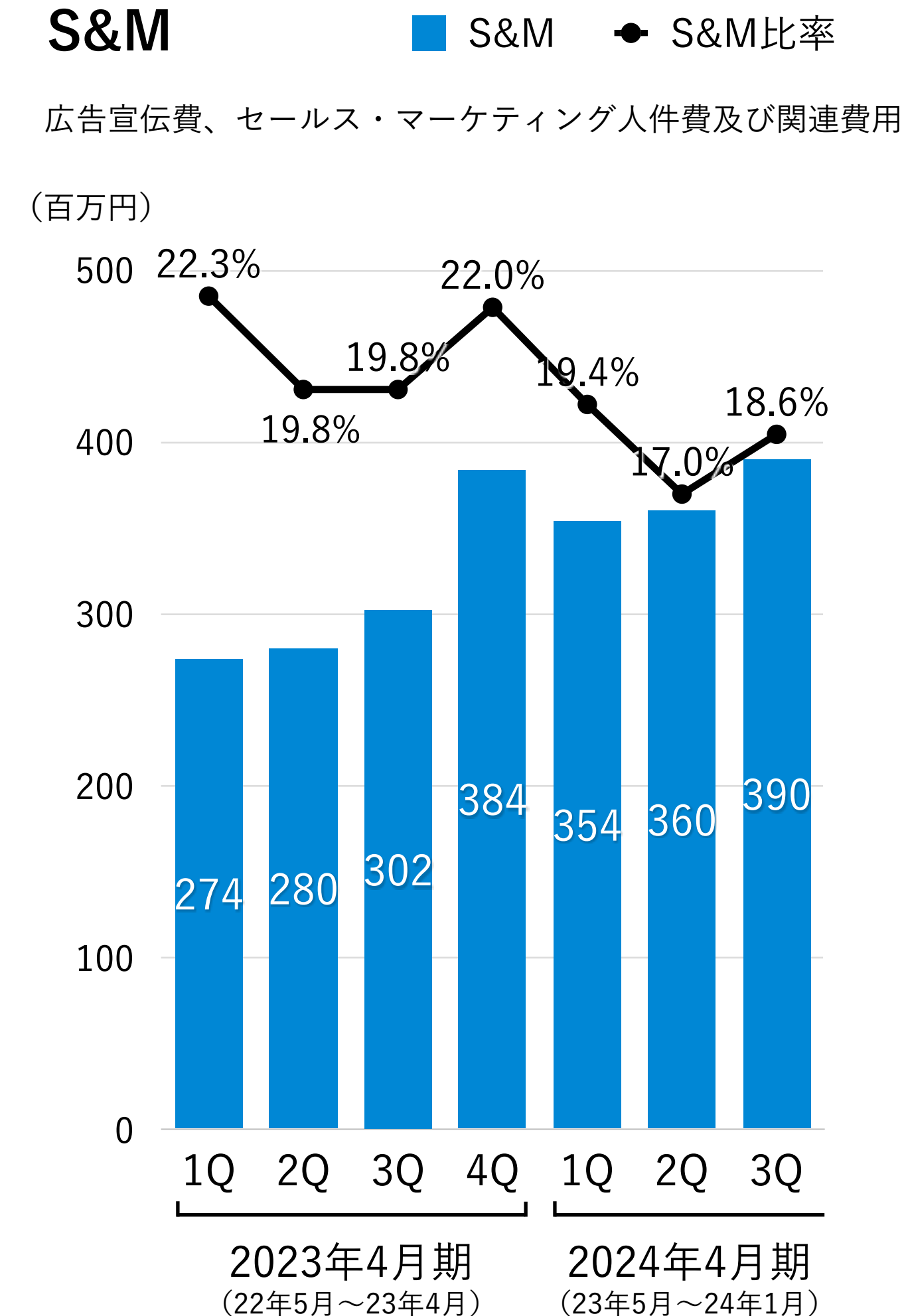
地方に加えて都市部にもTVCMを展開し、潜在顧客層へのアプローチを拡大

リード獲得施策（主にウェブマーケティング）では、費用対効果を追求した効率的な広告投資を継続

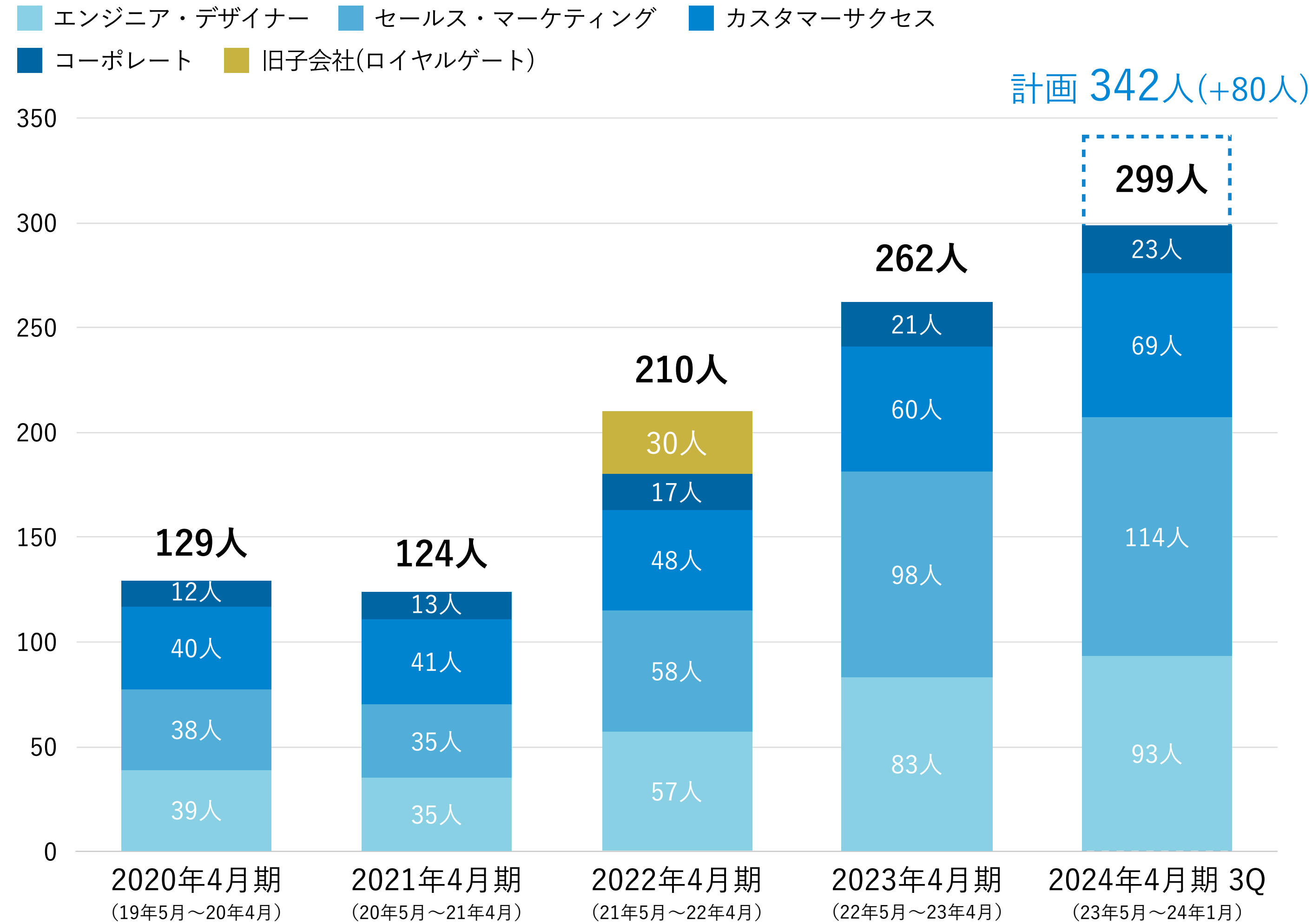
広告宣伝費



S&M



従業員数はQoQ +12名の299名に。2024年4月期はYoY +80名 (+30.5%) の計342名を計画



2024年4月期3Q

(2024年1月末時点)

299人

YoY

前年同四半期比

+21.1%

+52人

QoQ

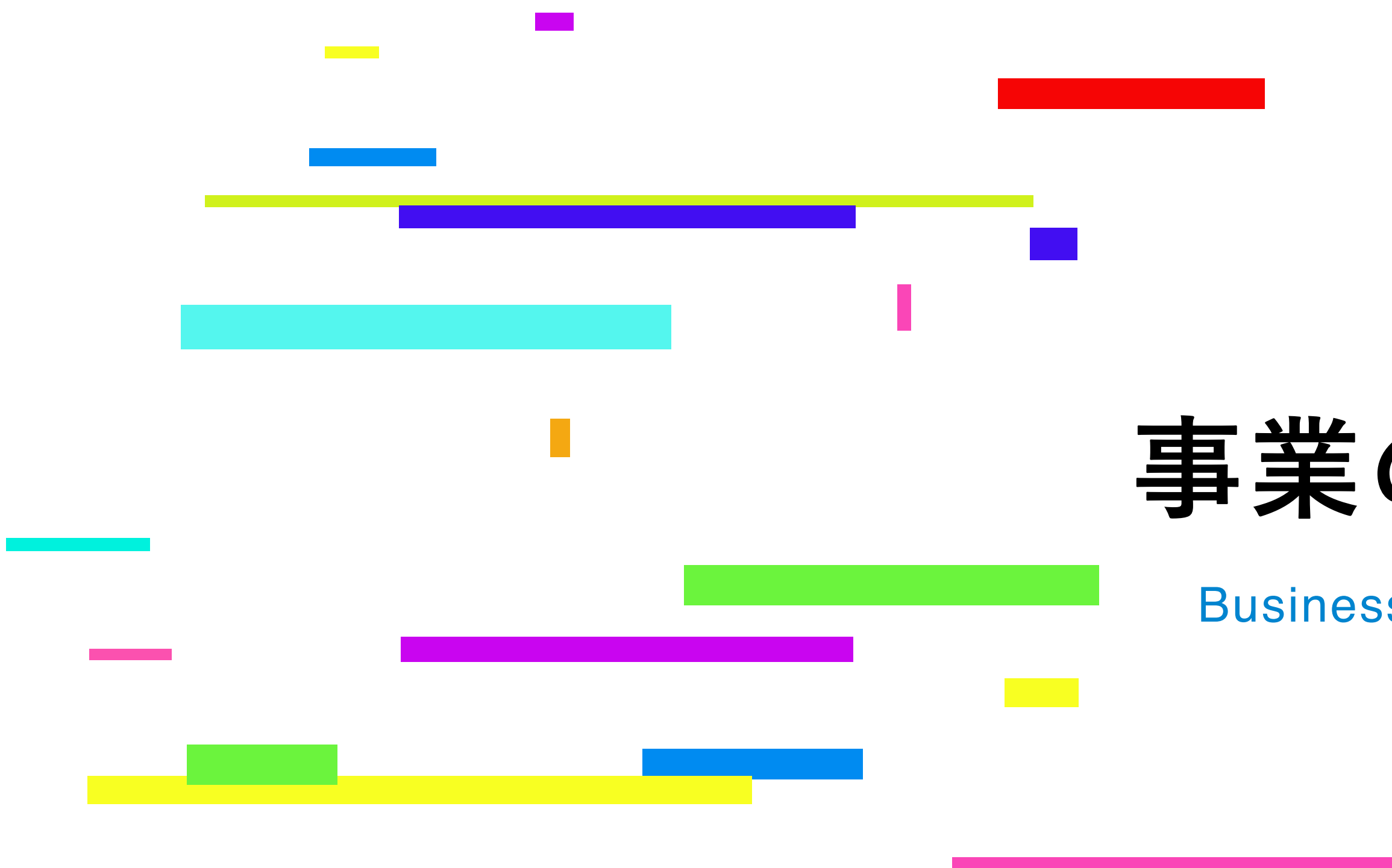
前四半期比

+4.2%

+12人

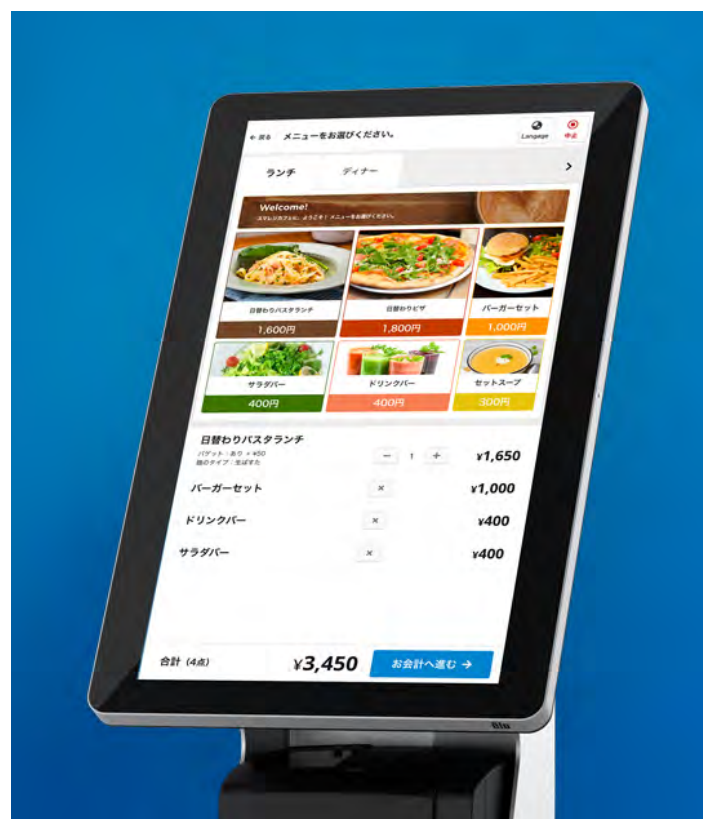
※派遣社員・パートタイマー除く、2024年1月末日時点の従業員数

※24年4月期1Qよりスマレジ・テックファーム所属エンジニアの計上を「コーポレート」から「エンジニア・デザイナー」に変更



事業の状況

Business Summary



2024年1月

- スマレジ・ベンチャーズ第6弾 中小企業向けクラウドERP 株式会社カムに出資
- セルフレジ（券売機）の開発を発表
- 「Pit-nagoya」出展（名古屋商工会議所）

2023年12月

- 札幌サポートセンターにて採用イベント（CS職）開催
- 「FUKUSHO DIGITAL EXPO」出展（福岡商工会議所）

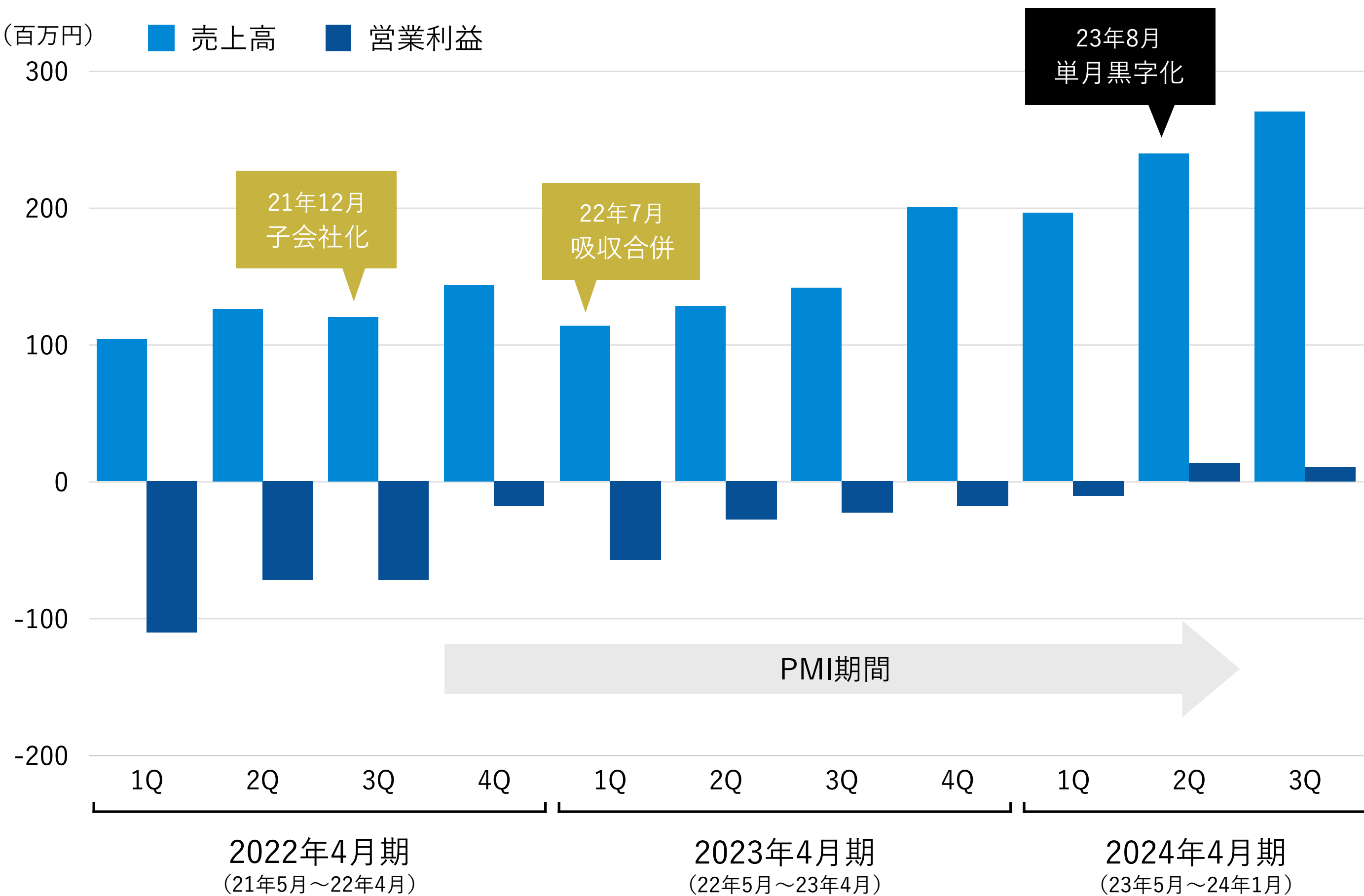
2023年11月

- 「スマレジ・PAYGATE」月額0円プラン提供開始
- 外食・中食・小売業界の垣根を超えた商談展示会「FOOD STYLE Kyushu 2023」出展
- 大阪・福岡にてスマレジユーザー会「アキナイラボ」開催
- IT導入補助金2023の対応件数が前年比+23%に伸長

M&A（ロイヤルゲート社）PMIの成果

計画通り2年でキャッシュレス決済事業（旧ロイヤルゲート社）の単月黒字化を達成
 参入障壁の高い決済事業を獲得したことで、今後の成長基盤を構築

キャッシュレス決済事業の売上高と営業利益の推移



PMI

- ・ビジネス課題の把握
- ・日次ベースでのPMI管理
- ・コーポレート・組織統合
- ・専門部署新設・体制強化
- ・原価低減施策の実施
- ・不採算サービスの整理
- ・クロスセル戦略
- ・プロダクト連携開発

※2021年12月に株式取得により株式会社ロイヤルゲートを子会社化、2022年7月に同社を吸収合併

ARR（サブスクリプション売上高）の推移

価格改定(2023年1月) から1年が経過し、ARRはYoY + 37.7%の成長

キャッシュレス決済ARRは、YoY + 96.6%の高成長

ARR※

55.1億

YoY

前年同期比

+37.7%

QoQ

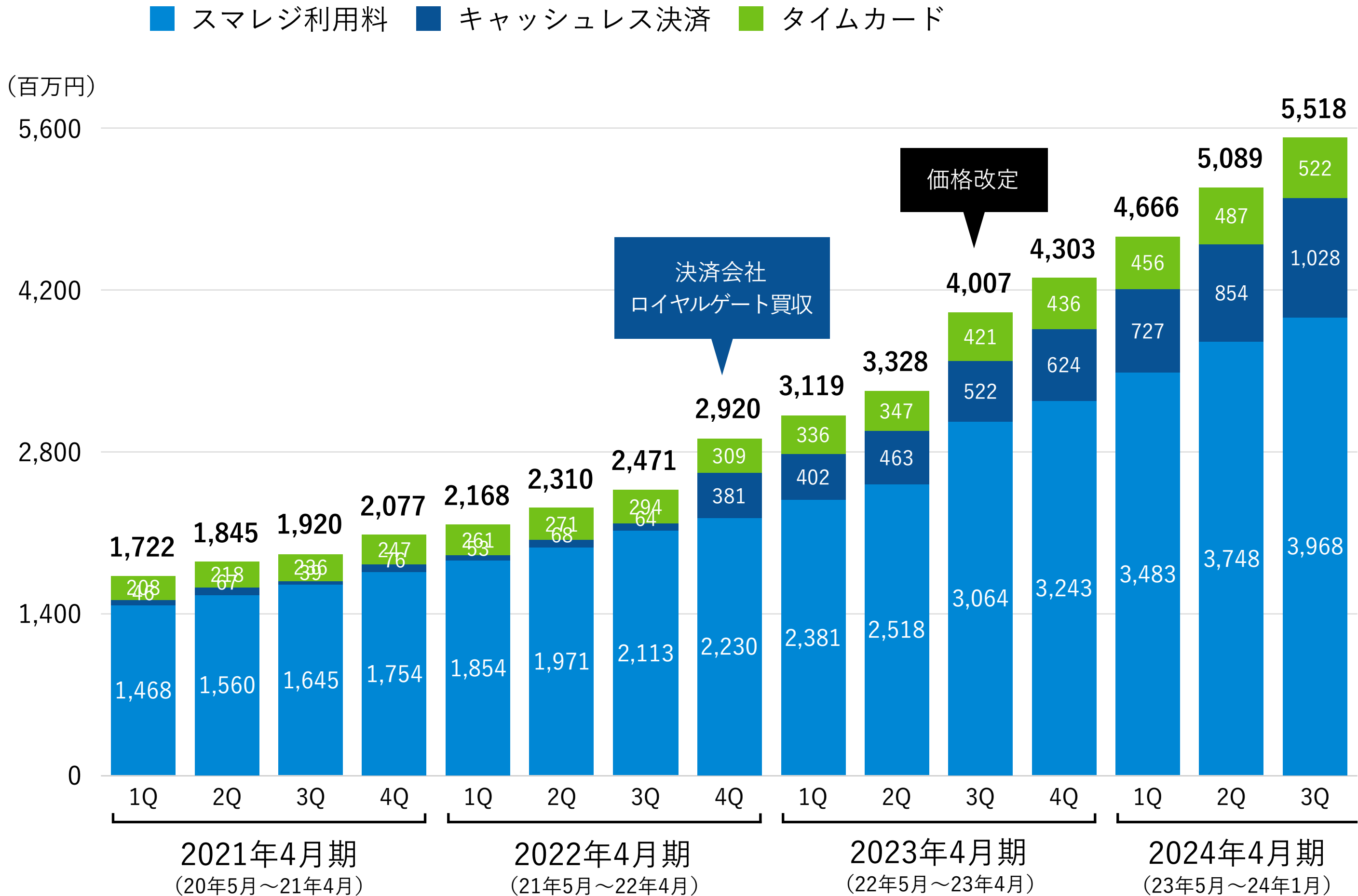
前四半期比

+8.4%

※期末月のMRR(月額利用料等)を12倍して算出

※ARR：Annual Recurring Revenue(年間経常収益)

MRR：Monthly Recurring Revenue(月間経常収益)



スマレジ利用料：POS月額、機器サブスク、各種オプション（端末追加、セルフレジ機能・会員上限追加等）、スマレジ・アプリマーケット
 キャッシュレス決済：PAYGATE月額利用料、加盟店手数料・キックバック（季節変動の影響を考慮し23年4月期4Qより四半期平均を基に算出）、処理料、決済端末連携費

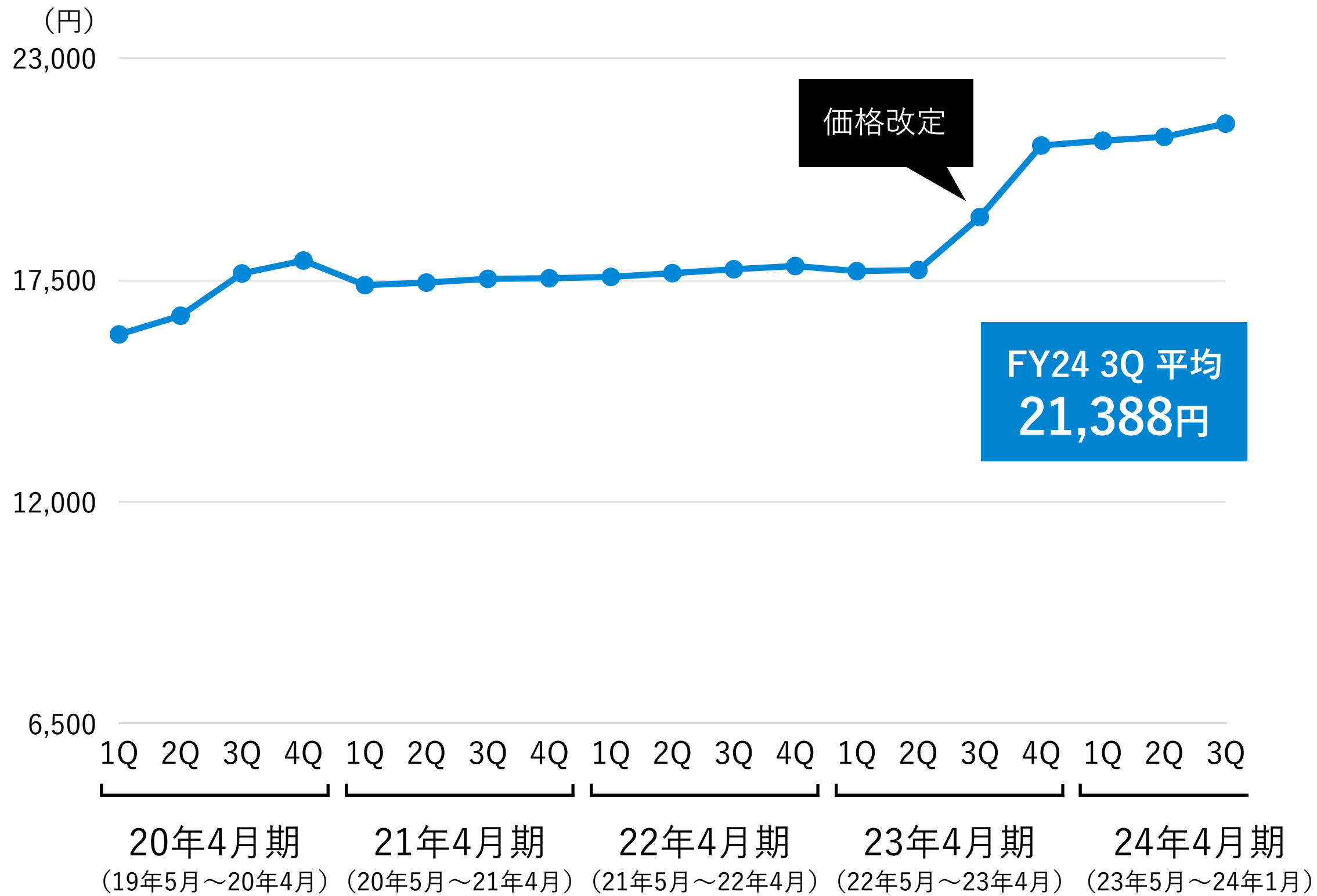


価格改定による影響が収束し、上昇基調を保って安定的に推移 (2023年1月に価格改定を実施)

ARPA

YoY
前年同四半期比
↑2,317円

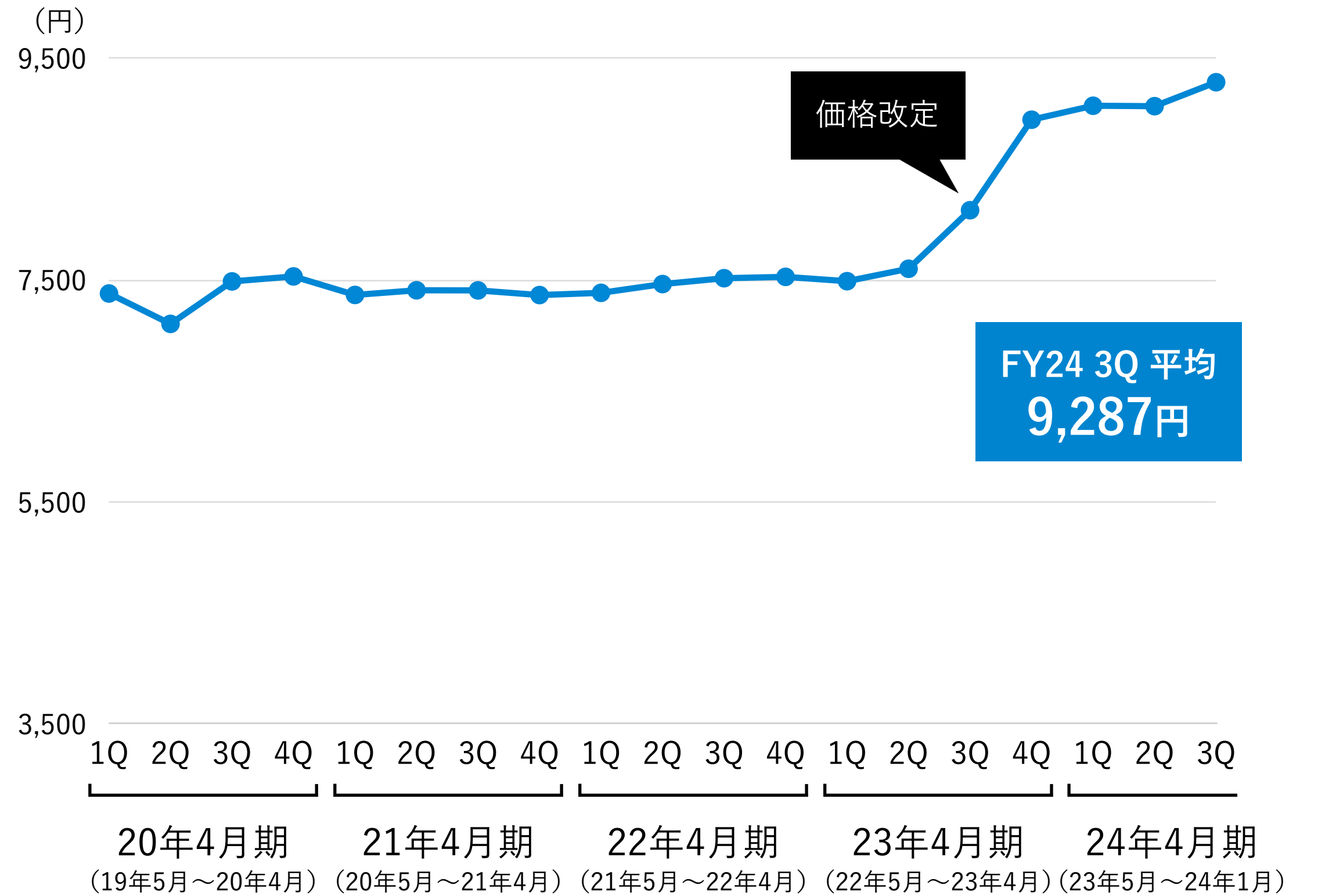
QoQ
前四半期比
↑328円



ARPU

YoY
前年同四半期比
↑1,154円

QoQ
前四半期比
↑216円

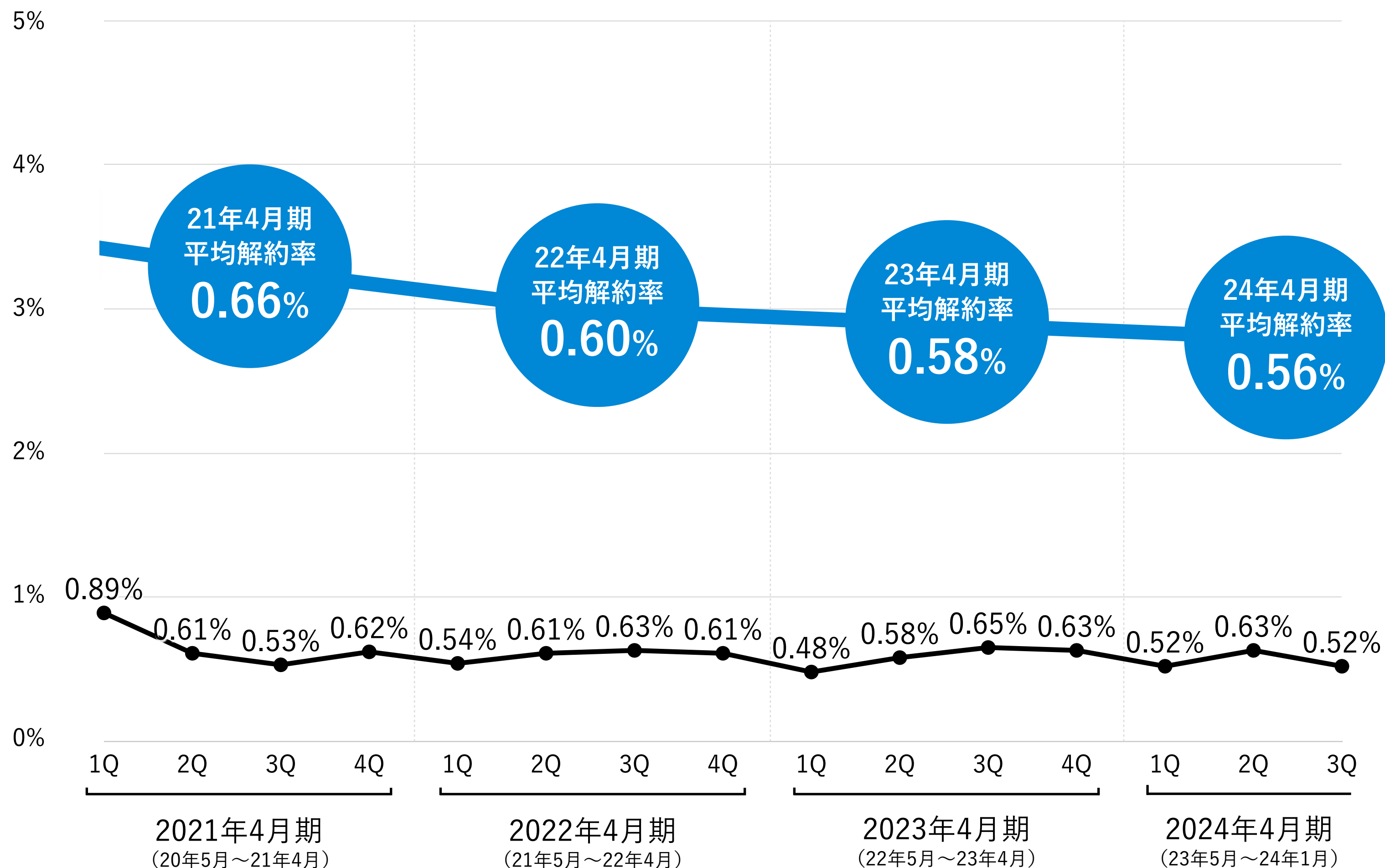


ARPA(Average Revenue Per Account) : 1契約ID (有料プラン契約のみ) あたりの顧客単価
タイムカード、アプリマーケット、キャッシュレス決済の売上は含まれておりません。

ARPU(Average Revenue Per User) : 1店舗 (有料プラン契約のみ) あたりの顧客単価

オンボーディングの強化とサービス品質の向上施策を継続

価格改定による影響はほとんどなく、平均解約率は低水準を維持 (2023年1月に価格改定を実施)



2024年4月期 3Q

(累計期間)

解約率

23年5月~24年1月

0.56%

YoY

前同四半期比

-0.01%

QoQ

前四半期比

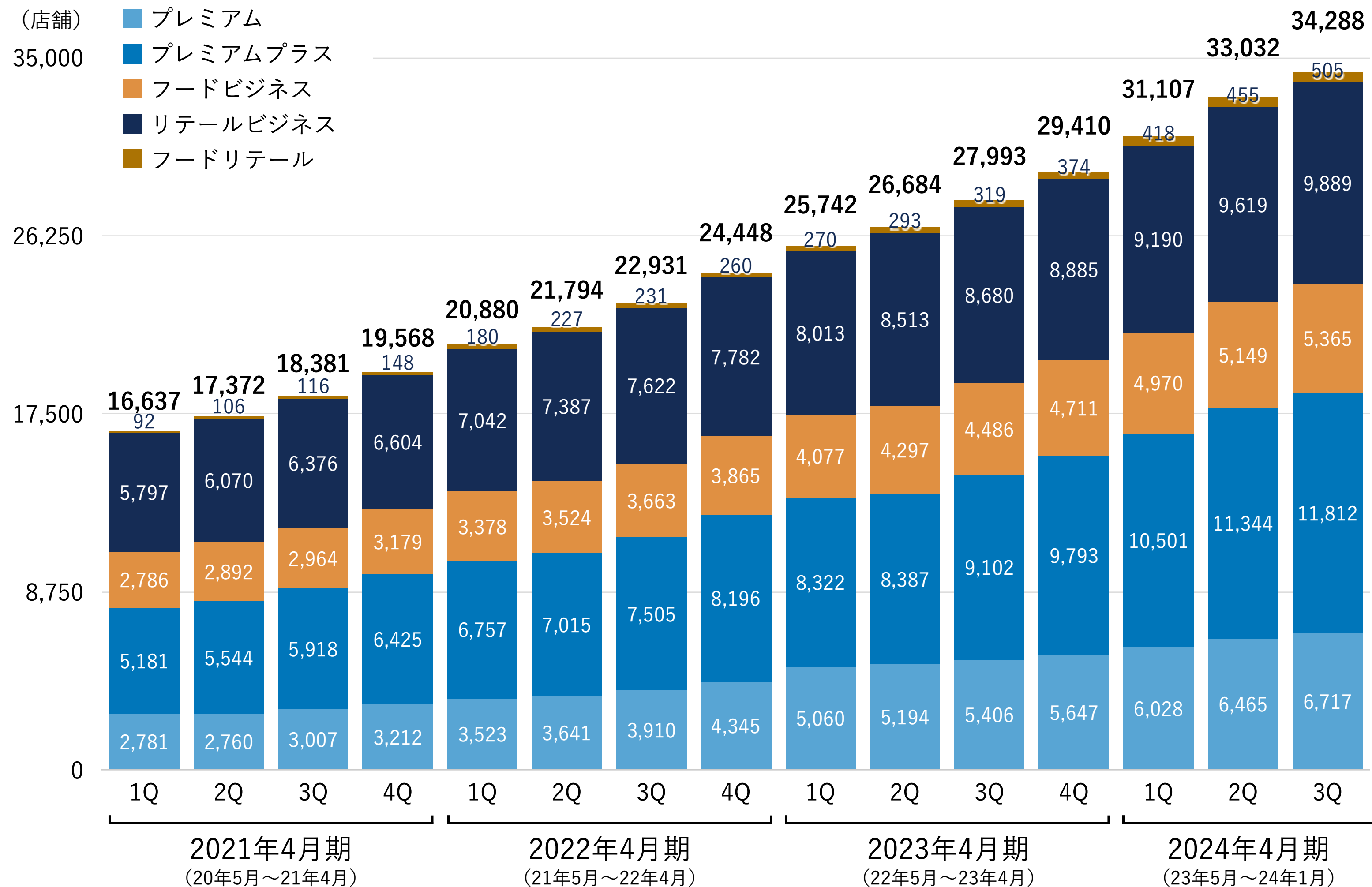
-0.11%

FY23 3Q累計 解約率0.57%
(22年5月~23年1月)

解約率：MRRチャーンレート

既存顧客の月額利用料に占める解約により減少した月額利用料の割合

各プラン堅調に増加し、YoY+22.5%の成長



有料店舗数※

34,288

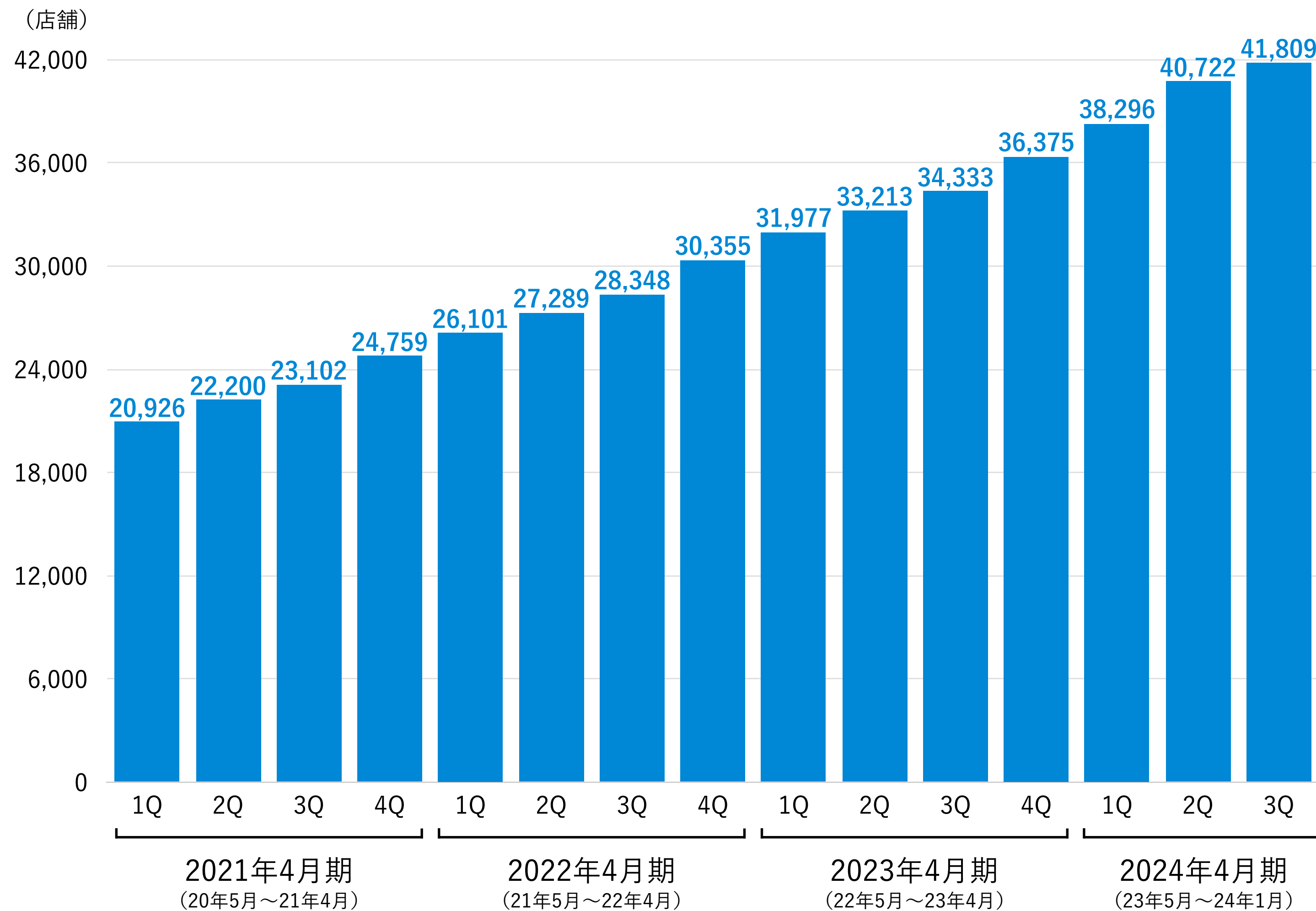
YoY
前年同四半期比
+22.5%
+6,295店舗

QoQ
前四半期比
+3.8%
+1,256店舗

※最新の有料店舗数情報を毎月配信
スマレジは有料店舗数情報を毎月開示しています。
2024年2月末日時点の有料店舗数は34,995店舗です。
最新のプラン別店舗数は[IRサイト](#)をご覧ください。

※スマレジは、より利用されるサービスを目指し、無料店舗数ではなく**有料店舗数とアクティブ店舗数**を重要なKPIとしています。
※スタンダードプラン契約にオプション追加で有料化されている場合がありますが、有料店舗数には含んでいません。

YoY+21.8%と着実に増加。季節要因（年末年始繁忙期によるレジ需要低下）によりQoQ+2.7%の微増

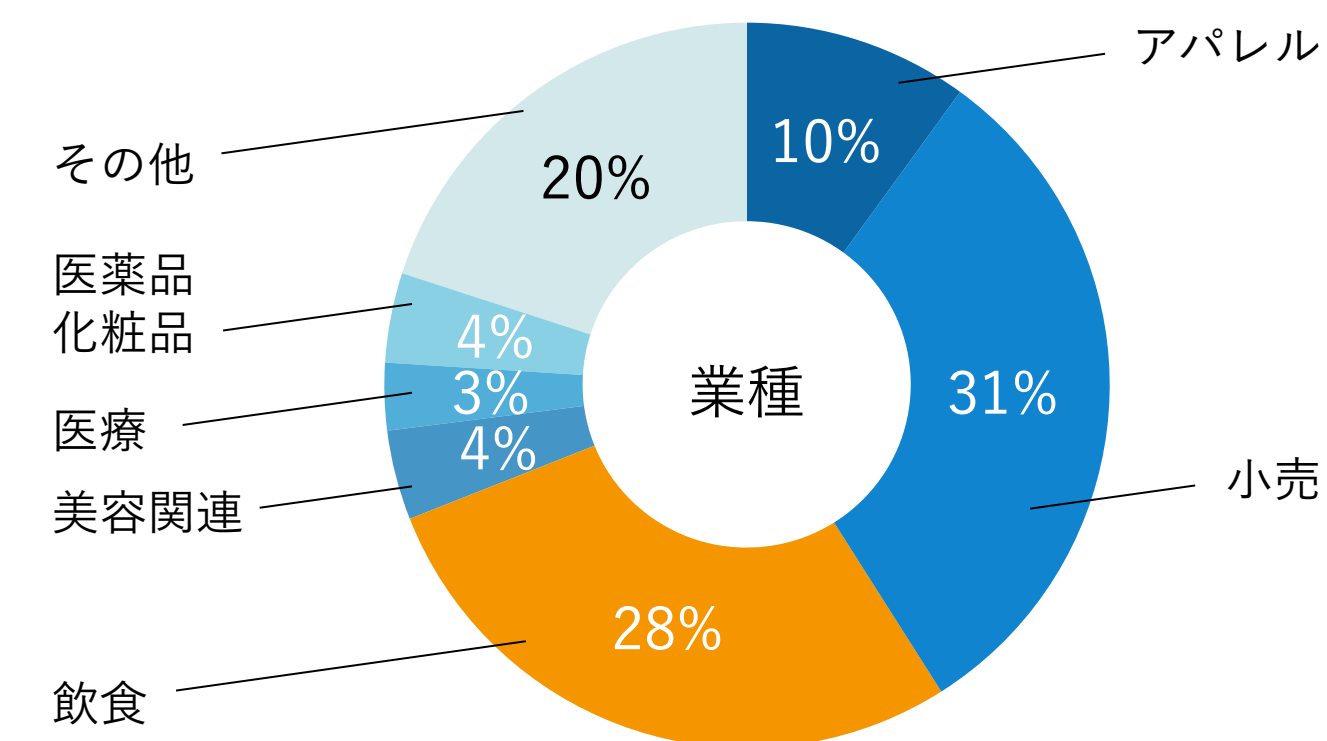


アクティブ店舗数

41,809 ※1

YoY
前年同期比
+21.8%
+7,476店舗

QoQ
前四半期比
+2.7%
+1,087店舗



※1 2024年2月末日時点のアクティブ店舗数は42,435店舗です。詳しくはIRサイトをご覧ください。

※プラン種別を問わず、POSレジ機能で直近1ヵ月の間に商取引（売上）の記録を行った店舗数。在庫管理やその他の機能を利用していても商取引がない場合はカウントされません。

累積取引総額が7兆円を突破し、年末年始商戦によりさらにGMVが伸長

スマレジ利用店舗のキャッシュレス取引比率は55.2%、日本のキャッシュレス化にも貢献 ※1

GMV成長率

YoY

前年同四半期比

+34.7%

QoQ

前四半期比

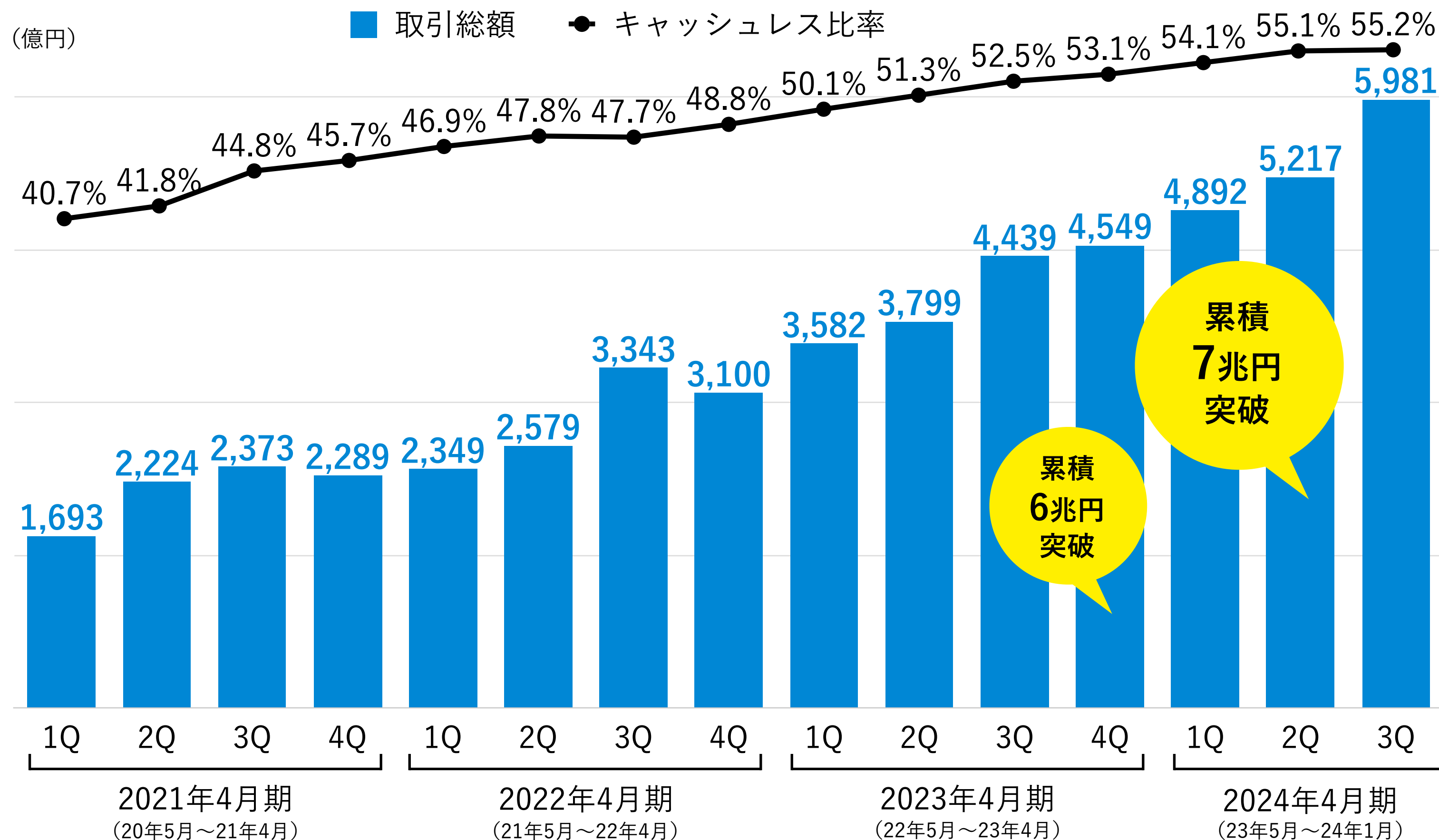
+14.6%

累積取扱高

7.8兆円

(2024年1月末時点)

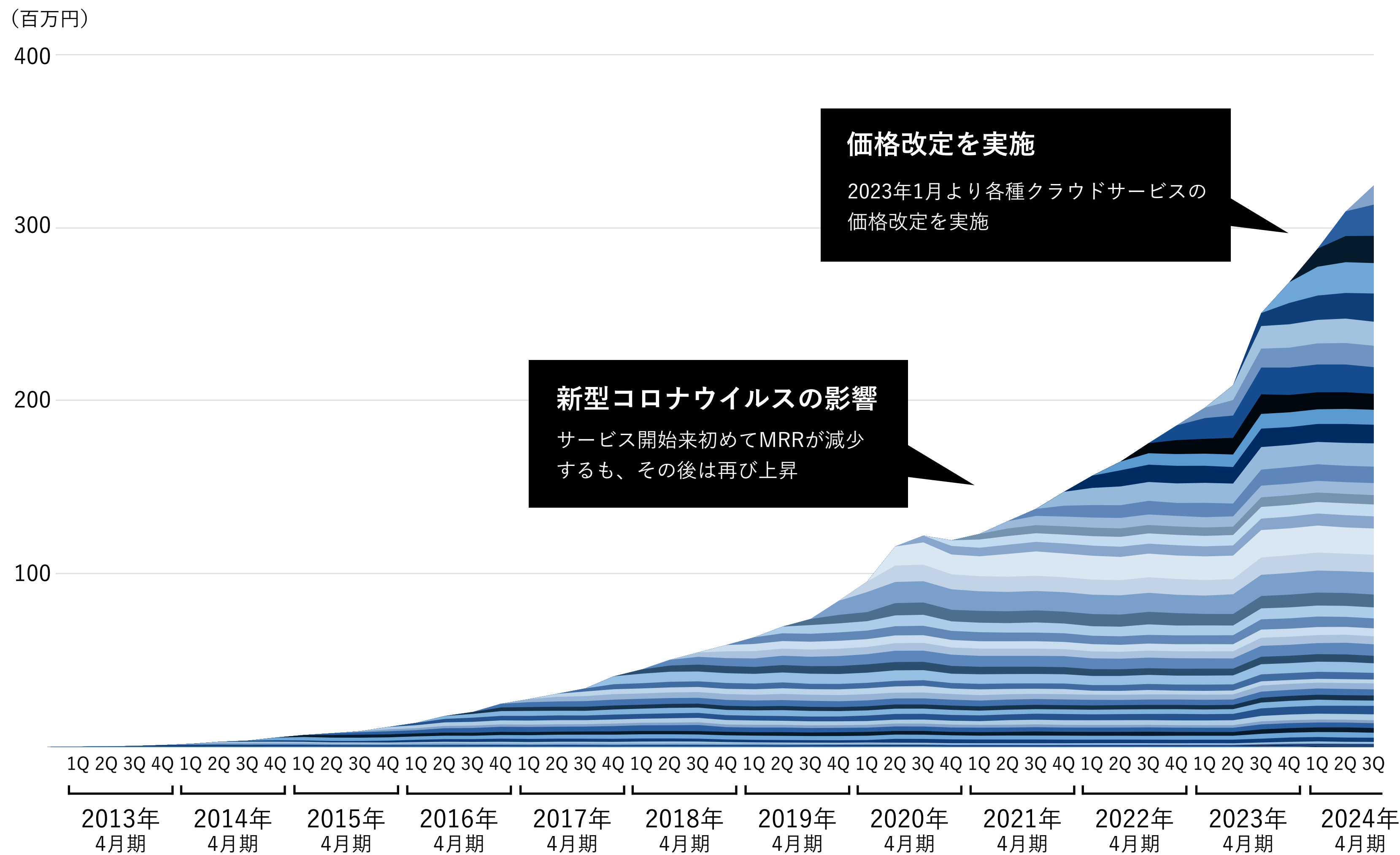
流通取引総額



キャッシュレス取引：クレジットカード、電子マネー、QRコード決済、一部金券や商品券なども含まれます。

※1 経済産業省は2025年までにキャッシュレス決済比率を4割程度にするという目標を掲げキャッシュレス決済を推進。2022年のキャッシュレス決済比率は36.0%（2023年4月 経済産業省発表）

有料店舗数の堅調な増加によりMRRが拡大。安定した継続利用により持続的成長を実現



2024年4月期3Q

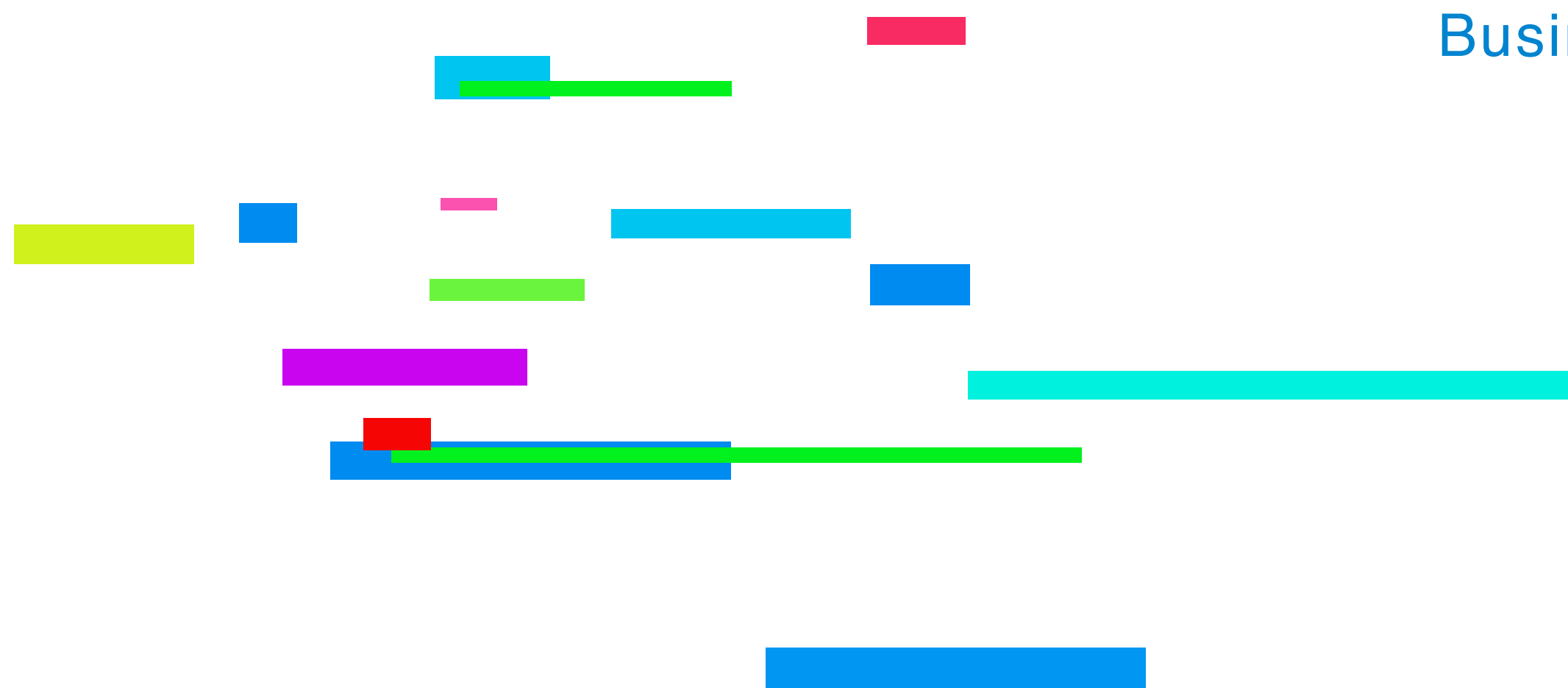
MRR
(POSレジのみ)

3.2億

※2020年3月～4月、新型コロナウイルスの影響を考慮したスマレジ月額利用料の減額措置を実施しましたが、上記グラフに減額措置の影響は含んでおりません。

スマレジについて

Business Outline



スマレジ(POS)やスマレジ・タイムカード(HR)が主力のクラウドサービス事業を中心にベンチャー投資やIT人材発掘育成事業を行い、スマレジ経済圏の拡大を目指しています。

クラウドサービス

その他

スマレジ(POS)



売上分析や高度な在庫管理等、小売業や飲食・サービス業のDX化により、店舗経営の効率化とデータ経営を可能にするクラウドベースの新しいPOSレジシステムです。

キャッシュレス決済



クレジットカード決済、非接触型決済、バーコード決済など様々な決済手段に対応したマルチ決済サービスです。

タイムカード(HR)



給与計算、休暇管理、シフト管理、日報、プロジェクト管理、ワークフローなど、勤怠管理の枠を超えた、お店や企業に求められるHRサービスです。

EC

STORE STORE

店舗周辺機器の
オンラインストア

SES

Smaregi TechFarm

SESを通じた
ITクリエイティブ
人材発掘・育成事業

CVC

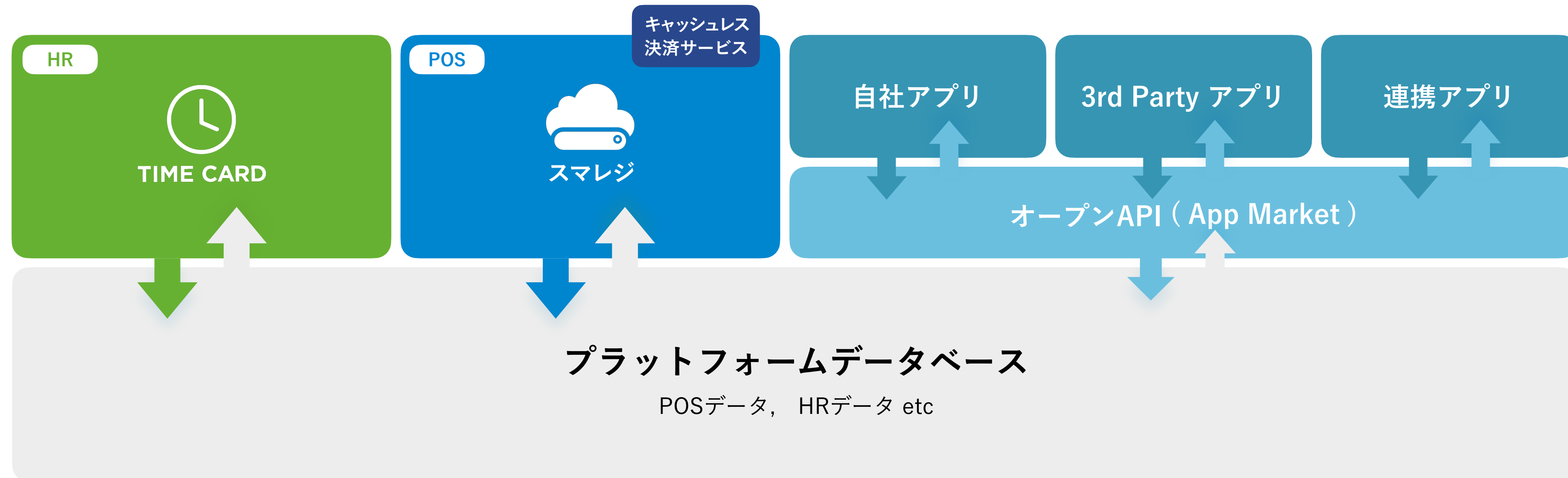
スマレジ Ventures

ベンチャー投資事業
及びスマレジ経済圏
の拡大事業

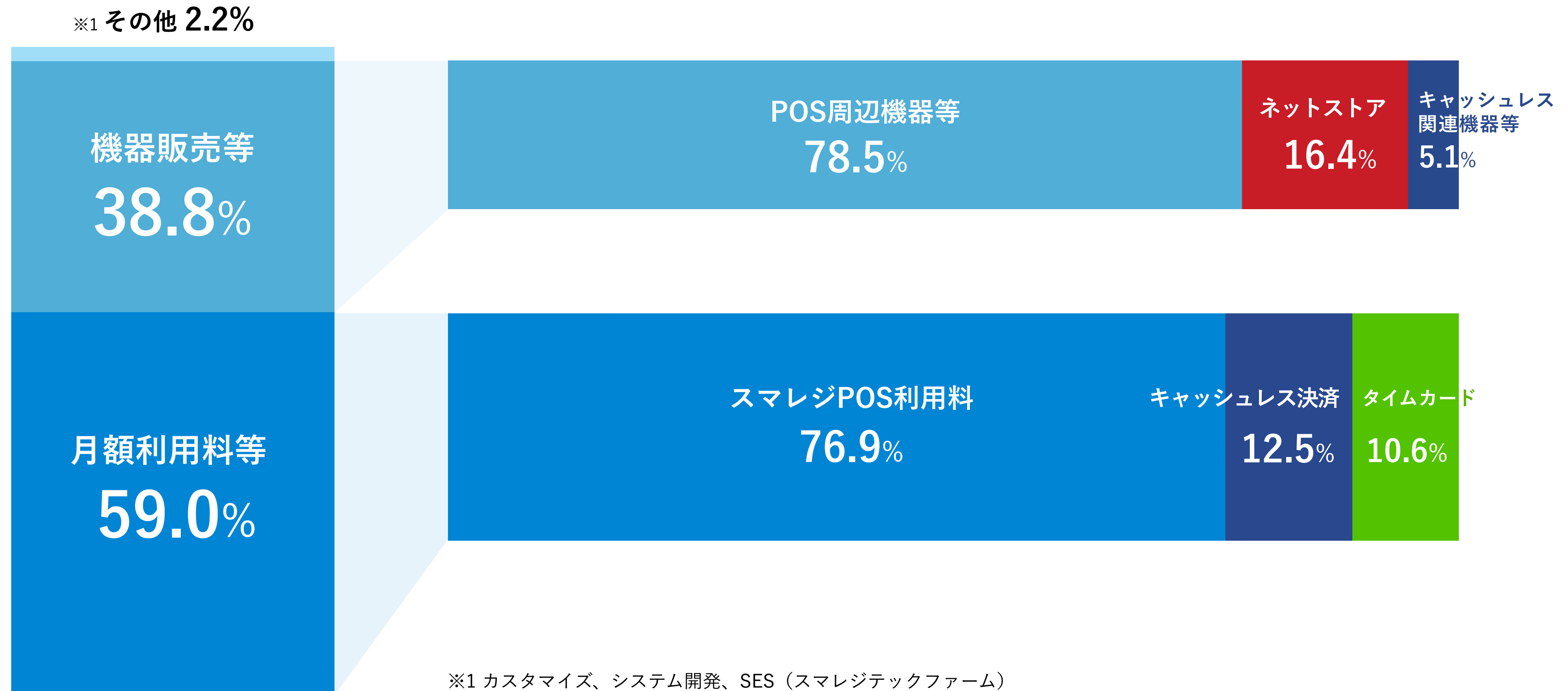
データを貯めて活用する時代へ。他社にはない豊富なAPI群を取り揃え、データに基づく店舗経営を支援

スマレジ・プラットフォーム

スマレジに蓄積される膨大なPOSデータやHRデータを中心としたプラットフォームを提供。
オープンAPI（App Market）により柔軟なデータのイン・アウトを実現。



主力のスマレジ(POS)は、関連する機器販売が伴う特徴的なクラウドサービスです。



※2023年4月期（2022年5月～2023年4月）の売上高実績を基に作成

※スマレジPOS利用料（月額利用料等）は、スマレジ・アプリマーケットの月額利用料（当社収益分のみ）を含みます。

スマレジ 高性能クラウドPOSレジ

スマレジは、売上分析や高度な在庫管理など、小売業や飲食・サービス業の店舗運営の効率化を実現する従来型POSレジシステムの枠を超えた、クラウドベースの新しいPOSレジシステムで、販売データ（POSデータ）を中心としたプラットフォーム事業を展開しています。



店舗経営を次のレベルへ POSデータで店舗経営を科学する

POSレジはデータ活用するためのもの。スマレジの経営理念である「OPEN DATA, OPEN SCIENCE」の下、POSデータを店舗経営に活用できる仕組みを提供し、店舗経営の課題解決を促進します。

データを貯めて活用する時代へ 従来型レジから進化したスマレジ

オープンAPI、プラットフォーム（スマレジ・アプリマーケット）を通じた、柔軟なデータイン・アウトを実現。データ駆動型経営ができるPOSレジです。



従来のレジ

レジといえば、
精算するもの..?



スマレジ

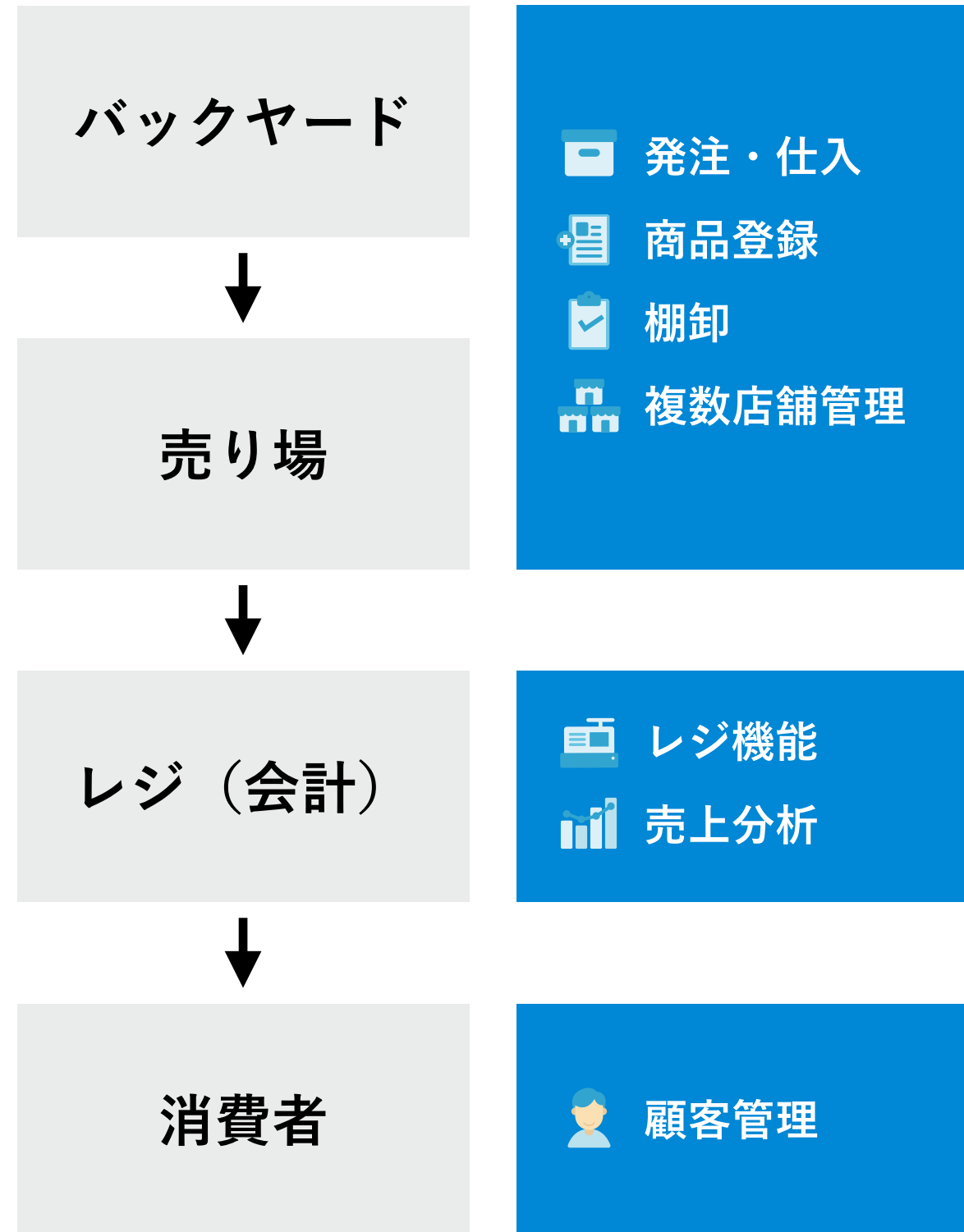
精算だけでなく、在庫や売上などの一元管理はもちろん、データに基づいた店舗運営が可能



スマレジ(POS)の特徴 - 圧倒的な高機能

基本機能は無料で提供。販売データで店舗経営を科学する高機能クラウド型POSレジ

小売店



飲食店



株式会社ショッパーズアイによる
インターネット調査 (2021年6月)



オープンAPI



大企業の
リプレイス需要
にも対応

会計や基幹システム等、
他社サービスとの連携が容易
他社CRMやERPなど連携実績多数

ユーザー中心設計



デザイン思考で
お店の課題を解決

優れた在庫管理

- ✓ 発注・仕入れ
- ✓ 店舗・倉庫移動管理
- ✓ 在庫変動履歴
- ✓ 棚卸

小売業に
強い理由

POSレジと連動した在庫管理で
最高のパフォーマンスを発揮

高度な売上分析



様々な種類の売上分析が
いつでもどこからでも確認可能

オムニチャネル

在庫や顧客情報の一元化



ネットとリアルの垣根を
取り払い接客の質を向上

カスタマーサクセス



解約率※
0.56%

サポート体制の充実による高い
顧客満足度が低い解約率を実現

アプリマーケット



必要な
機能が自由に
買える

様々な業種への多面的なアプロ
ーチと利便性の向上を実現

1店舗から大規模まで



規模に関わらず店舗のニーズに
対応。1店舗から多店舗まで幅
広いシェアを獲得

キャッシュレス決済連携



M&Aにより
決済システム
を取得

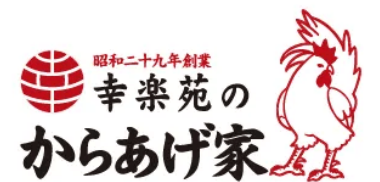
POSと決済の高い親和性
利便性と顧客単価の向上を実現

※MRRチャーン：スマレジの月間経常収益から算出される解約率 (2023年5月～2024年1月の平均)

スマレジ(POS)の主な導入店舗

1店舗から600店舗以上を運営する事業者まで、幅広いお客さまにご利用いただいております。

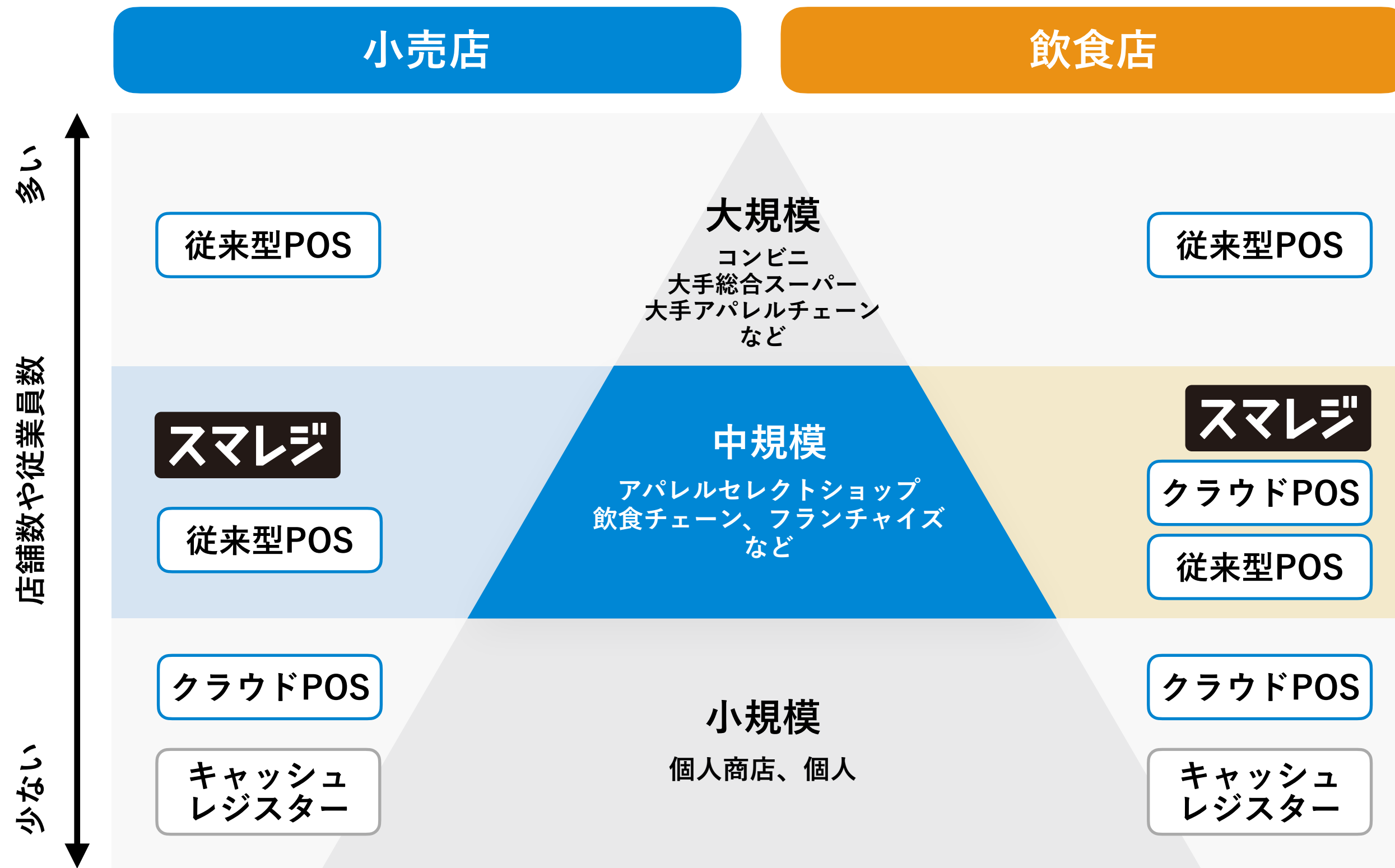
小売店・アパレル・その他






飲食店



店舗規模、業種別製品分布 スマレジは小売業と中規模で強みを発揮



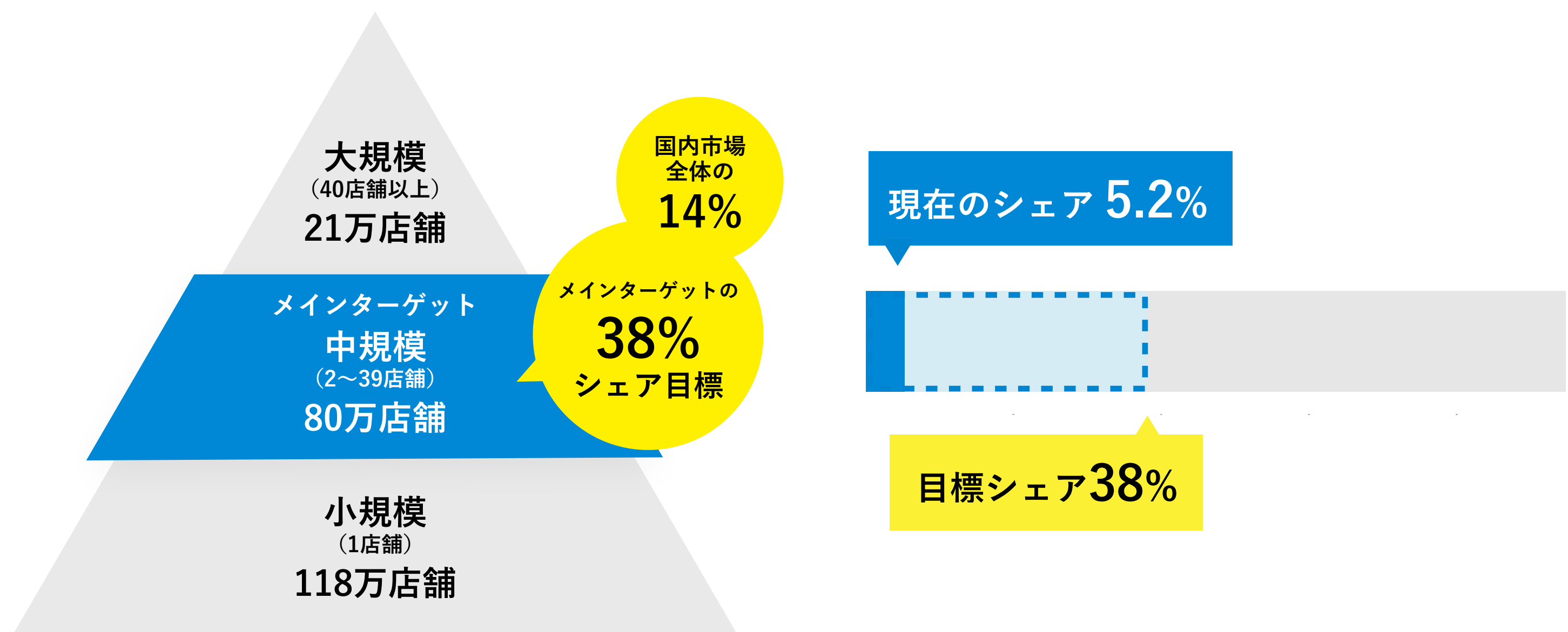
POSレジ市場の製品が従来型POSからクラウド型へ入れ替わっている。各業界内でも「クラウド化、DX化」の流れが加速し、在庫管理等の新しい市場を拓けながらクラウドPOSメーカー各社がシェアを競っている。

	 キャッシュレジスター	 従来型POS POS専用機	 クラウドPOS PC、タブレットPOS
機器の価格	○ 安価 1~10万円	✗ 高価 50~数百万円	○ 安価 10~15万円
維持費	△ 故障機器の入れ替え	✗ 故障機器の入れ替え アップデート費用別途	○ パーツ毎に買い替え アップデート費用なし
操作性	△ ボタンが多く 操作が煩雑	△ ボタンが多く 操作が煩雑	○ iOSアプリなので 操作が簡単
機能	✗ 単機能	○ 高機能	○ 高機能・拡張自由
サポート	✗ 基本なし	○ ヘルプデスク、 訪問サポートなど	○ ヘルプデスク、メールサポ ート、ヘルプサイトなど

メインターゲットは80万店舗。目標シェアは38%

POSレジ市場は、1社独占によるスケールメリットが考えにくいので、**独占市場ではなく競争市場である**

メインターゲットの中規模層を中心に、大規模層（従来POSからの入替需要）から小規模層（App Market利用による課金）までターゲットを拡げ、ピラミッドの中心からシェア拡大を目指します。

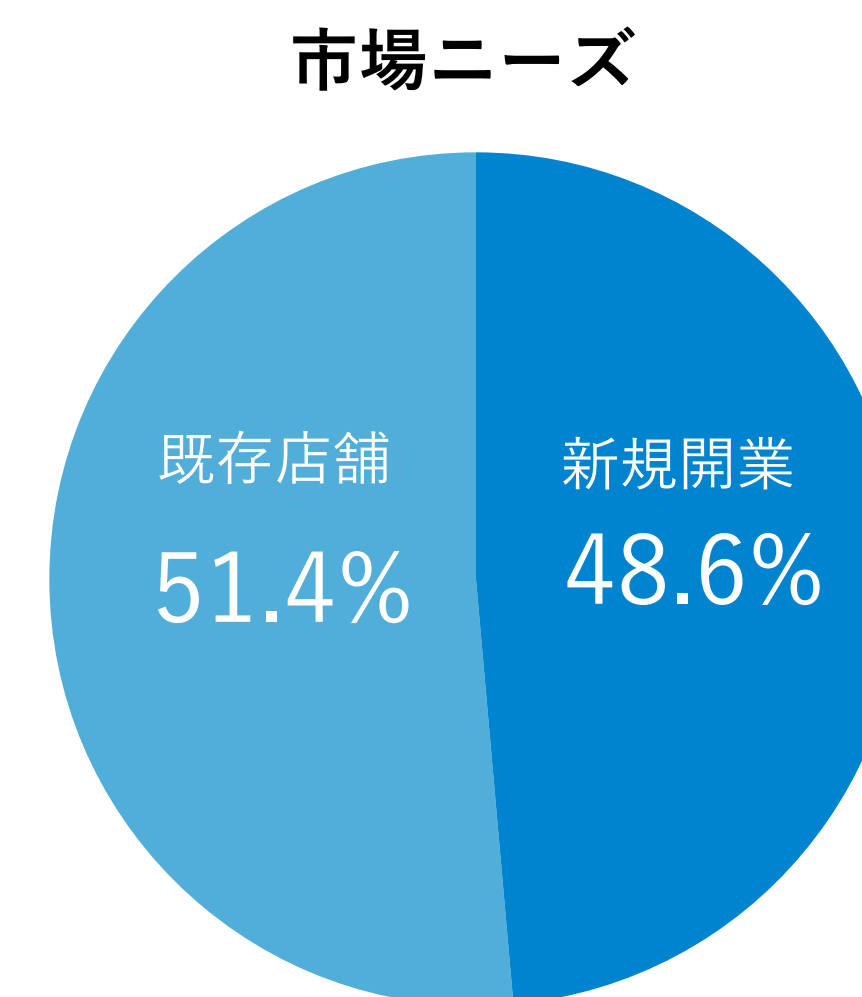


経済産業省・総務省「令和3年経済センサス」の調査結果を基に当社作成

(アクティブ店舗数 4.1万 ÷ メインターゲット 80万 = 5.2%)
※2024年1月末時点

タッチポイントは新規開業と既存店リプレイス

市場ニーズは新規開業と既存レジのリプレイスがほぼ半数を占める（当社問い合わせデータから推測）。新規開業需要を軸にリプレイス需要にも狙いを定め、POSレジ市場全体におけるスマレジのシェア拡大を目指す。



※スマレジの問い合わせデータ (2022年5月~2023年4月) を基に算出

直接的な事業シナジーのある企業を中心にM&Aを積極的に検討しています。
また、ITエンジニア獲得のためのアクハイアリングも併せて検討しています。

1

顧客数の獲得

顧客獲得のスピードアップ、
またはターゲット領域拡大の
ためのM&A

対象企業

クラウド系POSベンダー

2

顧客単価の向上 (ラインナップ充実)

スマレジを機能的に補完しうる
企業のM&A。クロスセル・
アップセルをねらう。

対象企業

スマレジと直接的なシナジーが望める
店舗向けソフトウェア企業

3

ITエンジニアの獲得

web系エンジニアを保有する
企業。プロダクトを保有して
いなくて構わない。

対象企業

システム開発会社、Sier、制作会社

代表取締役
CEO

山本 博士



2003年よりITエンジニアとして業務システム開発に従事。2011年クラウド型POSレジサービス「スマレジ」を立ち上げる。

取締役副社長
事業統括/COO

湊 隆太郎



金融システムやPOSなど大規模開発に多く携わるITエンジニア。2011年クラウド型POSレジサービス「スマレジ」を開発。

取締役
プロダクト/CTO

宮崎 龍平



2011年入社、「スマレジ」の立ち上げメンバーとして開発に参加の後、2014年「スマレジ・タイムカード」を立ち上げる。

取締役
経営企画・マーケティング/
CSO

高間 館 紘平



2007年(現)ジャフコ入社。ベンチャー投資、M&A、株式上場に携わった後、2013年セカイエ代表取締役社長を経てスマレジに参画。

社外取締役
ITベンチャー投資

浅田 慎二



伊藤忠商事、伊藤忠テクノロジーベンチャーズ、セールスフォース・ベンチャーズ 日本代表を経て、2020年One Capitalを創業。

社外取締役
ブランディング/
コミュニケーション戦略

井川 沙紀



スタッフサービスHD、プレッツェルジャパン、トリドール、BLUE BOTTLE COFFEE Inc.アジア支社長を経て、2022年インフロレッスンスを創業。

執行役員
営業担当

杉本 聡介



大手アパレル企業を経て2013年スマレジ入社。営業部門にて営業課長、営業部長を歴任。

執行役員
カスタマーサクセス/
スマレジ・タイムカード担当

竹村 大



2013年入社。オンボーディングからアフターサポートを担うカスタマーサクセス部門の立ち上げに従事。

執行役員
ビジネスアライアンス/
アプリマーケット担当

鈴木 周吾



製造小売企業を経て2016年入社。サービスパートナー制度やパートナー推進部の立ち上げに従事。

常勤監査役

望月 拓也



2005年に現顧問の徳田と共に有限会社ジェネフィックス・デザイン（現 株式会社スマレジ）を設立、取締役に就任。2017年に常勤監査役に就任。

社外監査役

大平 豊



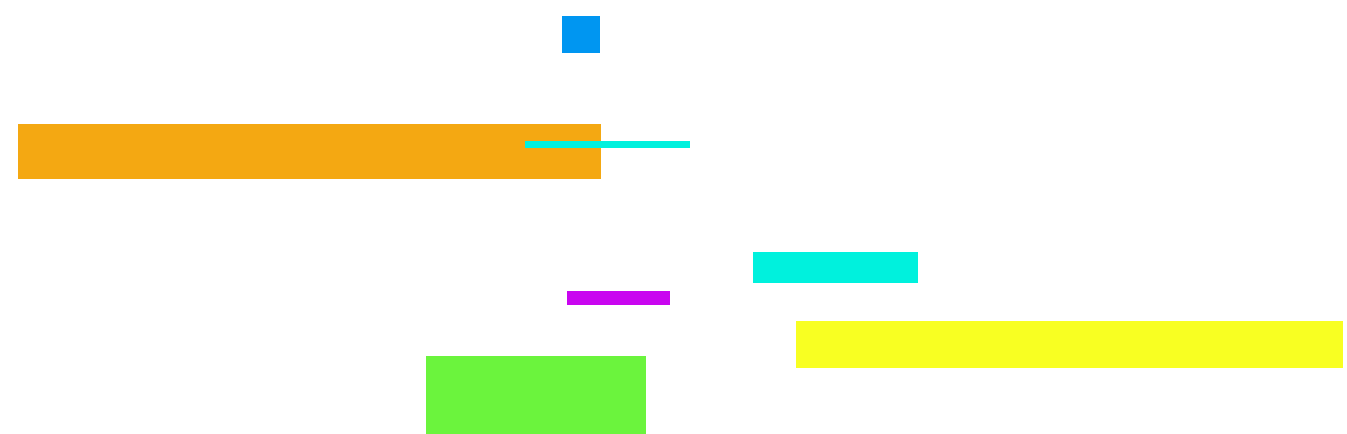
公認会計士、税理士。国家試験合格の1994年から会計専門職に従事。2017年、当社監査役に就任。

社外監査役

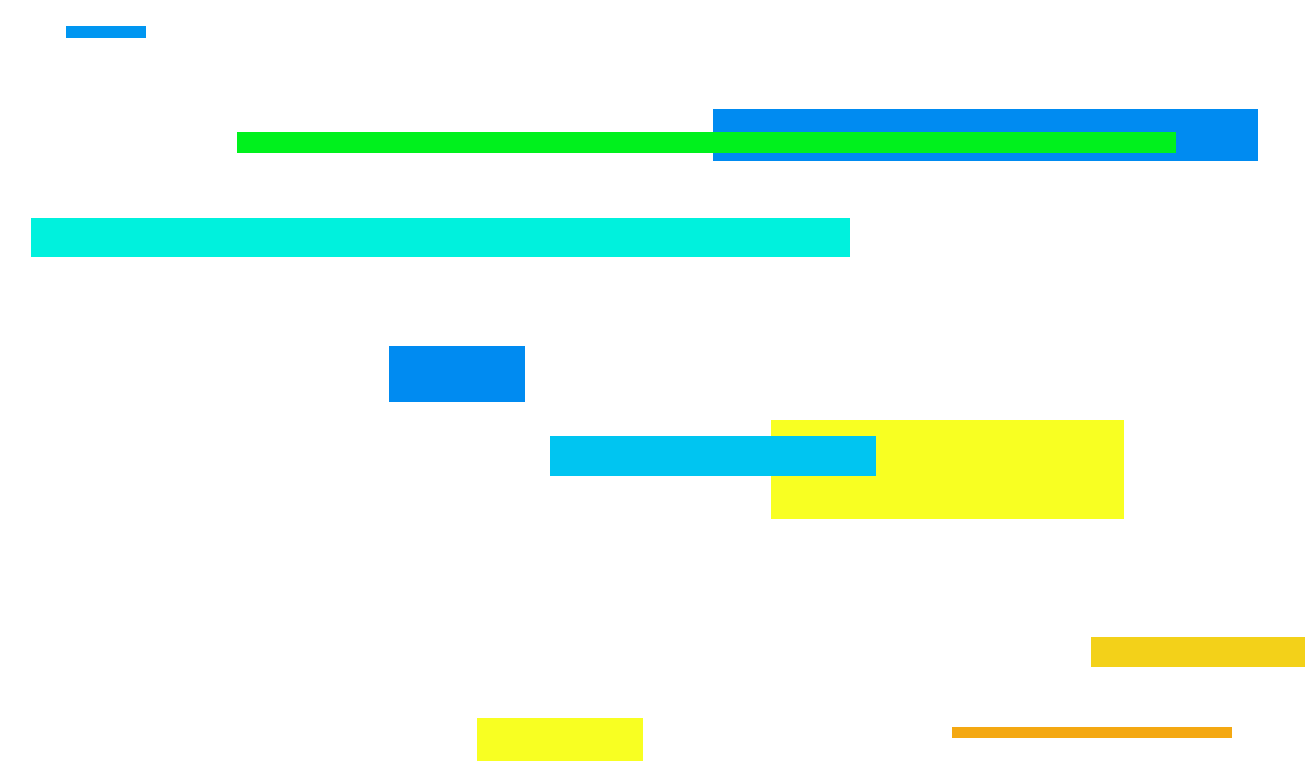
村田 雅幸



1991年より27年間、証券取引所に勤務した後、2018年PUBLIC GATE合同会社を設立し、当社監査役に就任。



Appendix

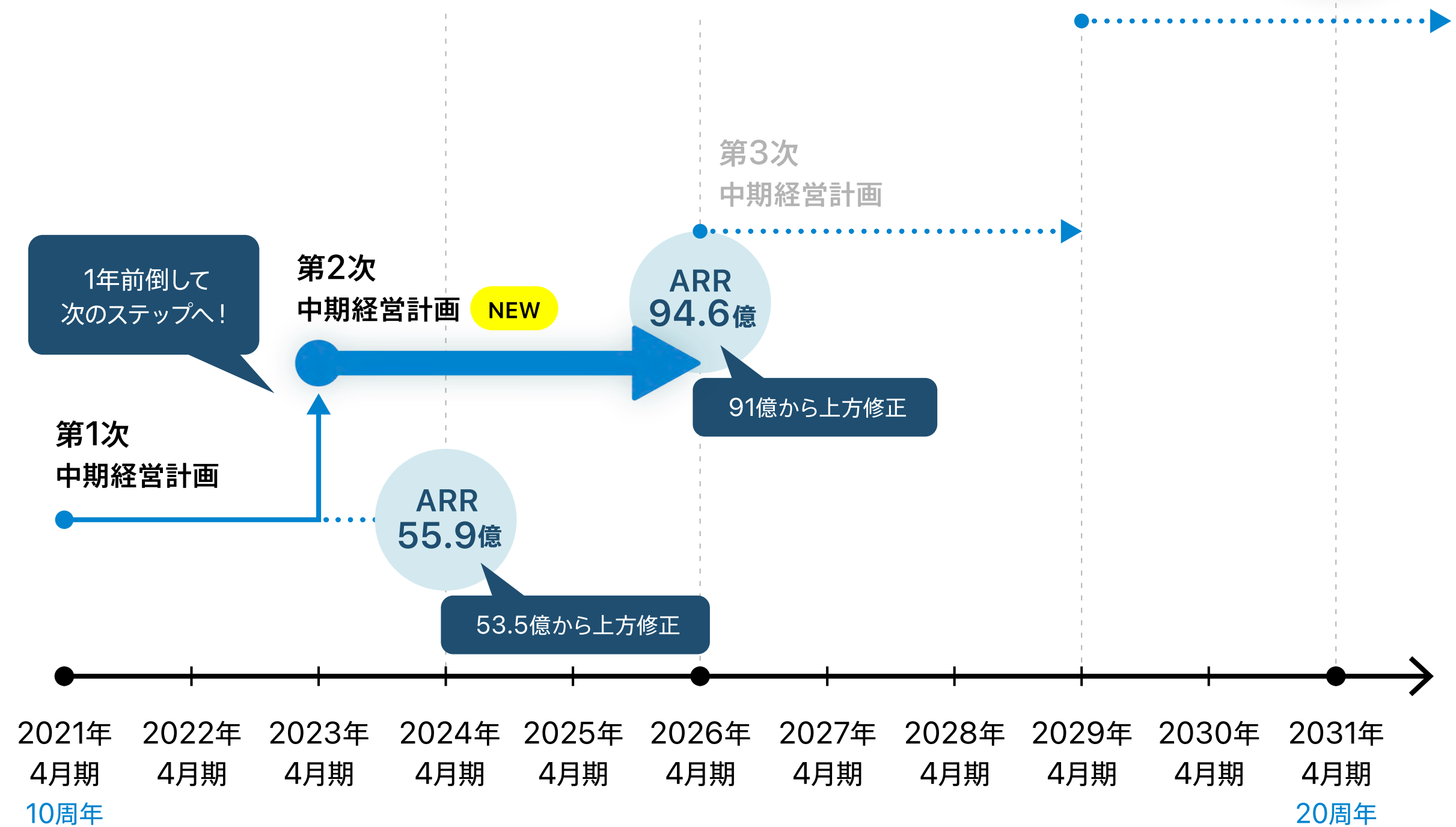


VISION 2031 TO BE THE NEW STANDARD

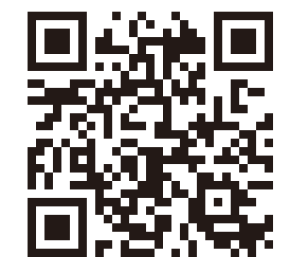
2023/9/13 UPDATE

ARR目標を上方修正し、2026年4月期までにARR94.6億円、CAGR30%の成長を目指す

1年前倒しで第2次中期経営計画に移行



詳しくは長期ビジョン・中期経営計画をご覧ください



VISION 2031 長期ビジョン・第2次中期経営計画

<https://corp.smaregi.jp/ir/management/vision2031.php>

メールで受け取る



IRニュースレター

最新情報を、いち早くお届け！

<https://corp.smaregi.jp/ir/newsletter/>



LINEで受け取る



スマレジIR LINE

友だち追加はこちら！

<https://line.me/R/ti/p/%40314vncog>



コーポレートサイトでも最新情報を配信しています。ぜひご覧ください。

株式会社スマレジ コーポレートサイト

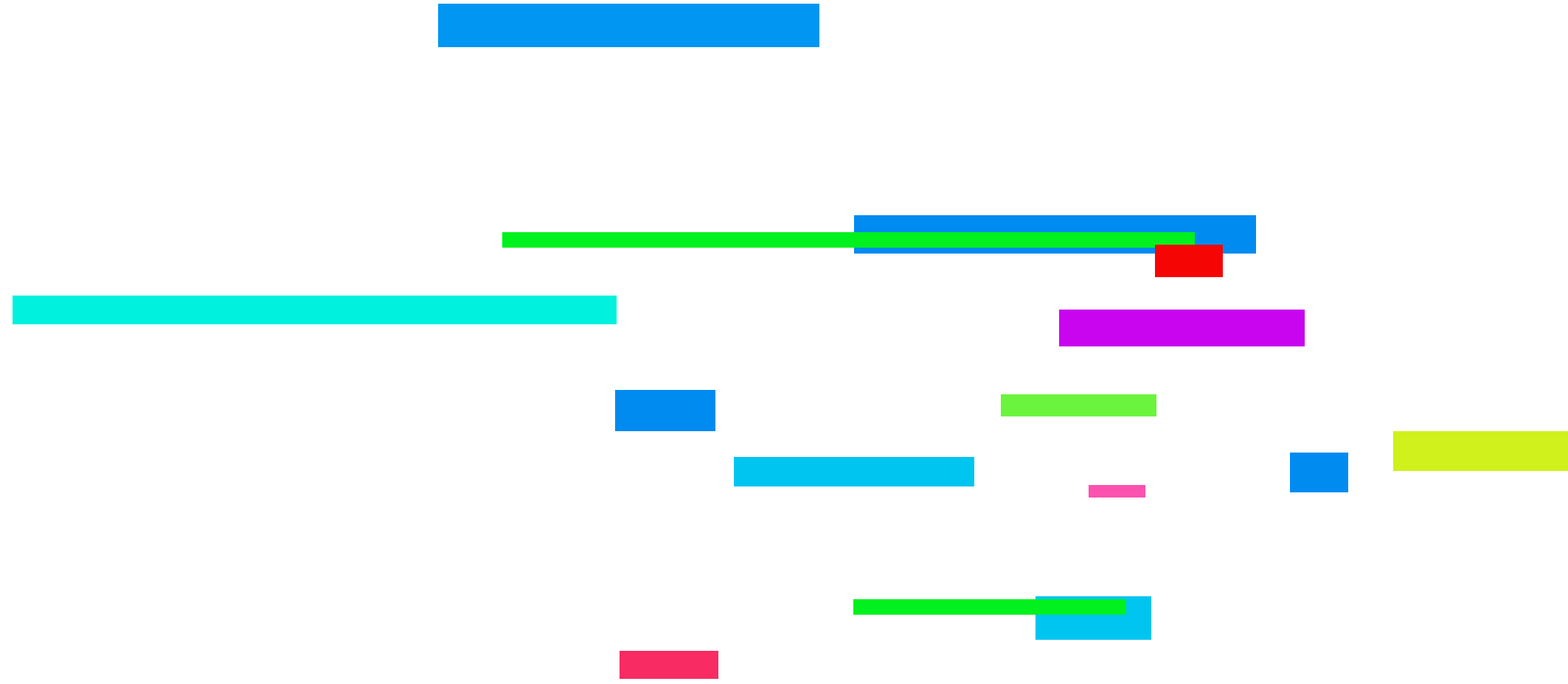
<https://corp.smaregi.jp/>

株式会社スマレジIR情報

<https://corp.smaregi.jp/ir/>

ディスクレイマー

本資料に記載されている事業計画、業績予測などの将来の見通しに関しては、現時点で当社が入手可能な情報に基づき当社が合理的であると判断したものです。これら将来の見通しは、市況や政治・経済状況など様々な不確実性を含むものであり、実際の業績とは異なる場合があります。本資料は、当社株式の購入や売却等の投資勧誘を目的とするものではありません。投資は、ご自身の判断のもと、ご自身の責任において行なっていただくようお願いいたします。



FY2024 3Q

2023.5~2024.1

第19期 第3四半期決算説明資料

株式会社スマレジ